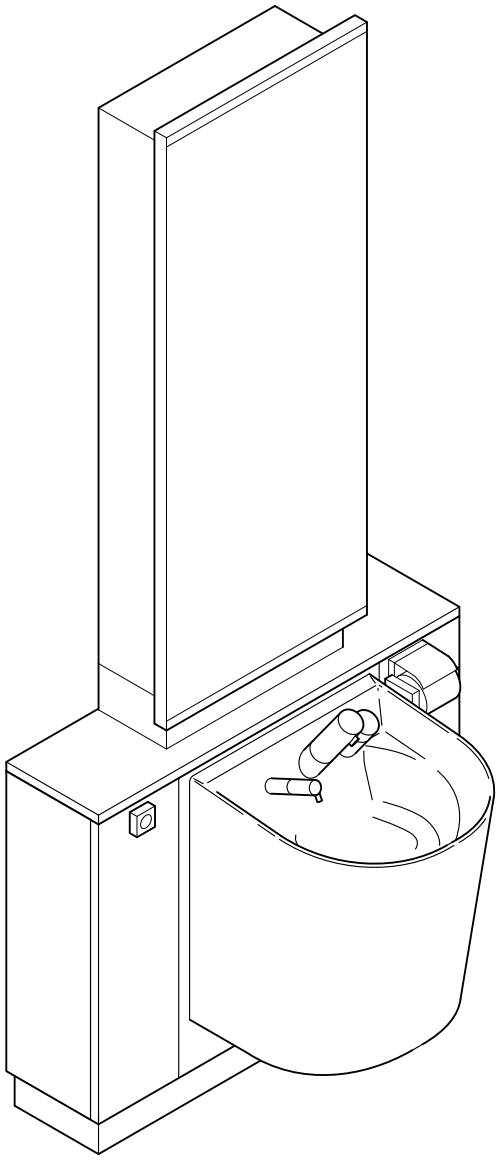
TOTO

施工説明書

オストメイト対応マルチパック

商品の機能が十分に発揮されるように、この説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様に使用方法を十分にご説明ください。



もくじ

安全上のご注意 ……3
施工にあたって ……3
全体構成 ……4
器具仕様 ……4
全体寸法 ……5
工具・部材 ……6
取付下地の確認、固定材の準備 ……7
配管、電源・コンセントの準備 ……8
事前施工情報　電気工事 ……8
事前施工情報　配管工事（水道水の場合） ……9
事前施工情報　配管工事（再生水の場合）……10
部品の確認 ……11
STEP 1. 墨出し …… 全体墨出し ……14
STEP 2. 床・壁の固定用部材の施工 …… フレームの設置 ……14
STEP 3. フレームの仮設置 …… フレームの設置 ……15
STEP 4. フレームの本固定 …… フレームの設置 ……16
STEP 5. 排水継手の取り付け …… 設備配管まわりの接続 ……17
STEP 6. 止水栓の取り付け …… 設備配管まわりの接続 ……18
STEP 7. 幅木の取り付け …… 幅木の取り付け ……18
STEP 8. 底目地受け材・フィラー受け材の取り付け … 仕上げ材の取り付け ……19
STEP 9. 底目地材の張り付け …… 前面板の仮設置 ……20
STEP10. 前面板の仮設置／調整 …… 前面板の仮設置 ……22
STEP11. カウンターの仮設置 …… カウンターの仮設置 ……23
STEP12. 鏡キャビネットの設置 …… 鏡キャビネットの設置 ……24
STEP13. フラッシュバルブの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……27
STEP14. 汚物流しの取付準備 …… 器具・金具類の取り付け ……28
STEP15. 汚物流しの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……29
STEP16. 洗浄管の取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……29
STEP17. 水受けトレイの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……30
STEP18. バキュームブレーカーの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……30
STEP19. 水栓の取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……31
STEP20. 電気温水器の取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……32
STEP21. 排水金具の取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……34
STEP22. 水石けんタンクの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……34
STEP23. コントローラーの取り付け …… 器具・金具類の取り付け ……35
STEP24. カウンターの取り付け …… カウンターの設置 ……36
STEP25. キャビネット下部横さんの取り付け ……36
STEP26. 点検口の取り付け …… 前面板の設置 ……36
STEP27. 洗浄ボタンの取り付け …… 洗浄ボタン・紙巻器の設置 ……37
STEP28. 紙巻器の取り付け …… 洗浄ボタン・紙巻器の設置 ……37
STEP29. 仕上げ …… 仕上げ ……37
取付完了後の確認 ……38
使い方ラベルの張り付け ……43

安全上のご注意（安全のために必ずお守りください）

各器具に同梱の施工説明書記載の「安全上のご注意」もご確認ください。

⚠ 警 告	誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注 意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物質的損害の発生が想定される」内容です。

このような絵表示は、禁止の行為であることを告げるものです。	このようは絵表示は、行為を抑制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 警 告

機器の設置は専門業者が行う。また、電気工事は関連する法令・規則にしたがって有資格者（電気工事士）が行い、施工時は漏電遮断機を取り付ける 火災や感電・漏水のおそれがあります。	**取付部には所定の下地を設ける** 固定強度不足のため、けがや壁の破損が生じるおそれがあります。
アース接続 **アース工事（D種接地工事）を行う** 火災や感電・漏水のおそれがあります。	**交流100V以外の電源やゆるんだコンセントで使用しない** 火災・感電の原因になります。
水場使用禁止 **浴室など湿気の多い場所には設置しない** 感電のおそれがあります。	**スイッチやコンセント部及び端子台などの電気製品に水をかけたり、ぬれた手でさわらない** 感電や故障の原因になります。
屋外及び傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取付けない 取付けが不安定になり、落下してけがやときに死亡のおそれがあります。	**電機関連部品の保守点検を行う場合は、必ず充電源（分電盤ブレーカーもしくは、コンセントを抜く）を切って作業を行う** 感電のおそれがあります。
電気温水器の電源コードをたばねたまま使わない 火災の原因になります。	

⚠ 注 意

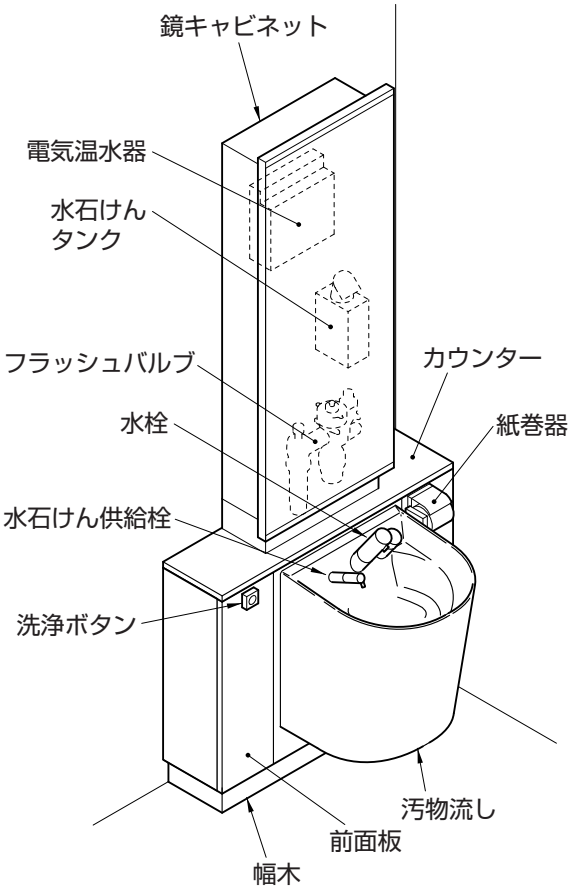
壁への固定が完了するまで、十分注意する。また、各部の固定がゆるんでいないことを確認する 倒れやすく、使用中に落下してけがをするおそれがあります。	**各器具の補修を行う場合は、漏水防止のため、必ずパイプシャフト内の元バルブも締めて作業を行う** 漏水により財産に損害を与えるおそれがあります。
工事完了後、給排水管から漏水がないか確認する 財産に損害を与えるおそれがあります。	**カウンターや各器具の上に乗ったり、重いものを載せない** 故障やけがの原因になります。
作業時は手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する 予期せずけがをするおそれがあります。	**電気温水器のタンクが空のときは、絶対に電源スイッチを入れない** 空焚きとなり、故障や事故の原因になります。
電気温水器の水抜きを行うときは、必ず電源スイッチを「切」にする 空焚きとなり、故障や事故の原因になります。	**鏡キャビネット、汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う** 腰を痛めたり、器具を落として破損する可能性があります。
本製品は寒冷地対応品ではないため、凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のため保温処理（保温材巻、電気ヒーターなど）を行う 凍結破損し、水漏れするおそれがあります。	

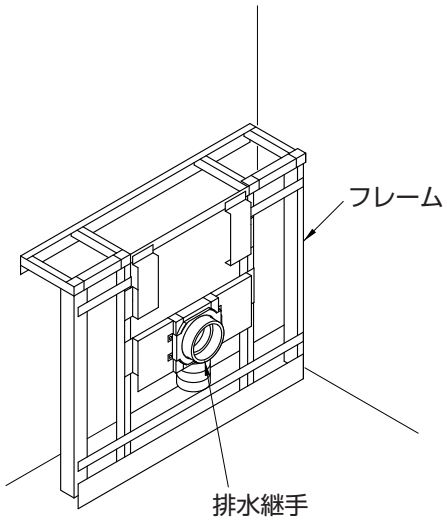
施工にあたって

- 必ず、商品図・事前施工情報を準備し、取付位置や取付下地など施工条件を事前に確認してください。特に、床・壁の傾き、倒れがないことや、配管の立上げ位置を確認ください。
- 不具合があった場合は責任者の方と調整し、不具合を解消後に取り付けてください。
- 各器具に施工説明書がある場合には、各器具の施工説明書も参照してください。

全体構成

イラストは右側壁仕様を記載しております。

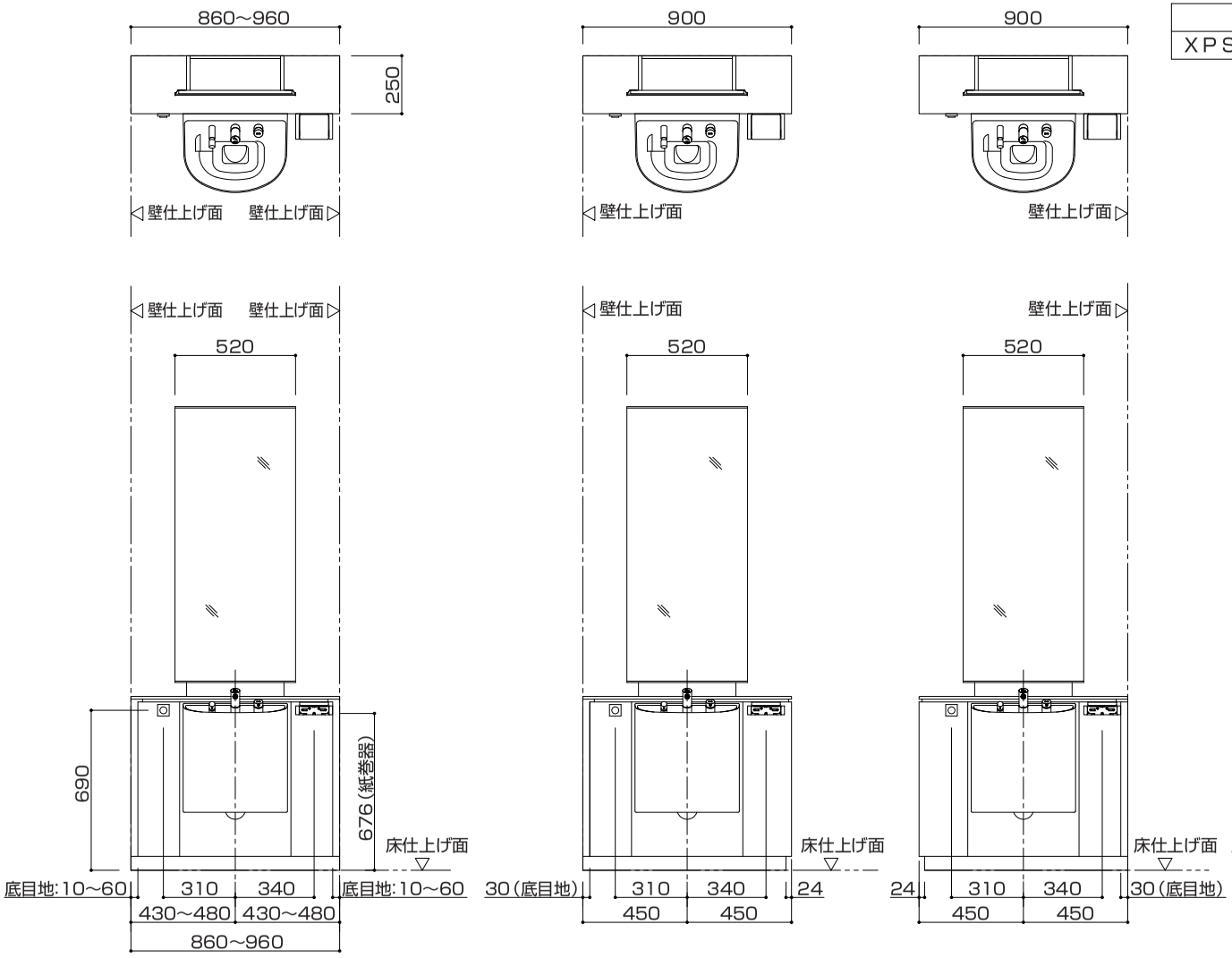




器具仕様

内　訳	仕　様	数量
汚物流し	壁掛フチ無しトルネード汚物流し　色：ホワイト	1
フラッシュバルブ	オートクリーンC　専用埋込タイプ　標準洗浄水量8L AC100V　50/60Hz　定格消費電力：常時2W以下、バルブ作動時4W以下	1
洗浄ボタン	タッチスイッチ洗浄　アルミアルマイト色	1
水栓	タッチ式プルアウト水栓	1
電気温水器	元止め式　ライニング内蔵用　貯湯量：約3L　適温出湯（出湯温度：約36℃） AC100V　50/60Hz　定格消費電力：600W	1
水石けん供給栓	横形水石けん入れ　手動式　タンク別体　容量：1200ml	1
紙巻器	シングル紙巻器（ワンハンドカット機能付）　材質：アルミ	1
排水フランジ	スリップインタイプ　各個抜き用排水継手付	1
鏡キャビネット	両面化粧パーチクルボード　本体色：ホワイト	1
前面板	ポリオレフィン系樹脂積層鋼板 色：ニュートラルホワイト、ニュートラルブラック、ニュートラルグレーのいずれか	1式
カウンター	エポキシアクリレート系人工大理石「マーブライト」 色：パルフェホワイトまたはパルフェブラック	1式
幅木	ステンレス（ヘアライン仕上げ）	1式
フレーム	溶融亜鉛めっき鋼板	1式
洗浄管、スパッド、フレーム設置部材	専用タイプ同梱	1式

※配管部材は含まれておりません。別途現場にてご用意ください。
※コンセント部材は含まれておりません。別途現場にてご用意ください。



XPSA71系　左右間口対応の場合

XPSA72系　左側壁仕様の場合

XPSA73系　右側壁仕様の場合

品　番	品　名
XPSA7＊A＊A＊＊	オストメイト対応マルチパック

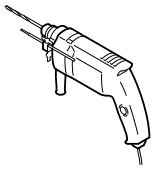
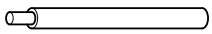
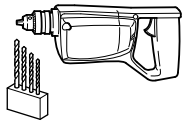
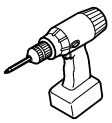
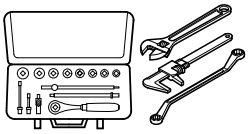
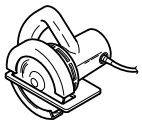
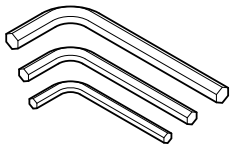
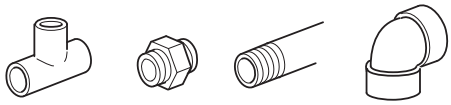
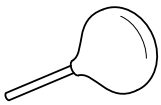
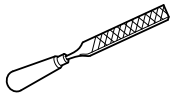
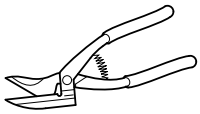
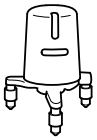
前板カラー	カウンターカラー
W：ニュートラルホワイト	W：パルフェホワイト
B：ニュートラルブラック	B：パルフェブラック
G：ニュートラルグレー	

フラッシュバルブ
7：上水用
8：再生水用

勝　手	仕　様
1：3方壁	左右間口対応
2：2方壁（左）	左側壁仕様
3：2方壁（右）	右側壁仕様

工具・部材

一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具・部材をご用意ください。

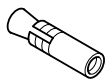
<table>
<tr>
<td> 
振動ドリル</td>
<td>
コンクリート用ドリル
φ12
※フレーム固定用</td>
<td> 
アンカー打込み棒
M8アンカー用
※フレーム固定用</td>
<td> 
電動ドリル
鉄工用キリ　セット</td>
</tr>
<tr>
<td> 
電動ドライバー
ビットサイズ：
250mm以上の
ロングビット、#2、#3</td>
<td> 
ソケットレンチ
モンキーレンチ（150mm）
モーターレンチ
メガネレンチ</td>
<td> 
丸のこ
カーバイト付き超硬刃
または
ダイヤモンドカッター</td>
<td> 
六角棒レンチ
対辺（mm）
サイズ：1.5・2.5</td>
</tr>
<tr>
<td colspan="2"> 
配管・継手類
※事前施工情報を参照して、
必要な配管・継手類を準備
ください。</td>
<td> 
ダストポンプ</td>
<td> 
金やすり</td>
</tr>
<tr>
<td> 
金切りばさみ
切断能力…ステンレス板0.8mm</td>
<td> 
レーザー墨出器</td>
<td colspan="2"></td>
</tr>
</table>

取付下地の確認、固定材の準備

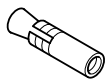
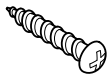
取付下地を確認し、固定部材を準備します。

取付下地などに不具合があった場合は責任者の方と調整し、解消後に取り付けてください。

床固定

床下地	部材名称	床固定材		
コンクリート （仕上厚35mm以内）	汚物流しフレーム	グリップアンカーM8 （下穴φ12　深さ：仕上厚＋40mm） （躯体に40mm打ち込むこと）		フレームに同梱

壁固定

壁下地	部材／製品名称	壁固定材		
コンクリート （仕上厚35mm以内）	フレーム	グリップアンカーM8 （下穴φ12　深さ：仕上厚＋40mm） （躯体に40mm打ち込むこと）		フレームに同梱
	鏡キャビネット	カールプラグ （タッピンねじφ4.5　下穴深さ40）		現場手配
	電気温水器	カールプラグ （木ねじφ5.1×32用）		現場手配
鋼製下地＋耐水合板	フレーム	コーチねじφ6×50		フレームに同梱
	鏡キャビネット	タッピンねじφ4.5×40		キャビネットに同梱
		タッピンねじφ4.5×50		
	電気温水器	木ねじφ5.1×32		電気温水器に同梱

チェック　●取り付け下地に応じた固定材を準備してください。

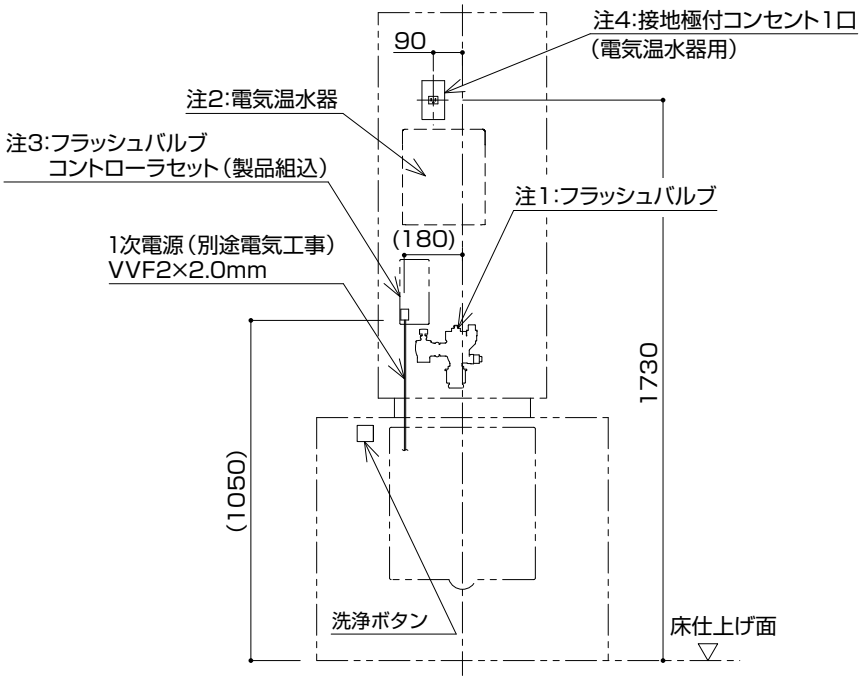
配管、電源・コンセントの準備

商品図、以下に記載する事前施工情報を参照して、配管工事、電気工事を行ってください。

給排水配管、電源・コンセントを所定の位置に取り出し、設置してください。

チェック　●正しい位置に設置されていることを商品図・事前施工情報を参照して確認してください。

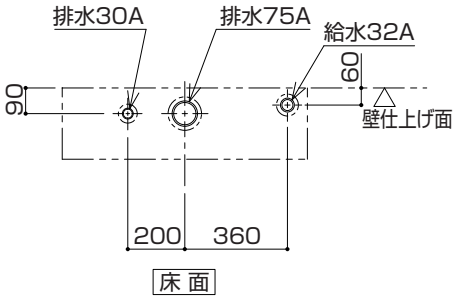
事前施工情報　電気工事



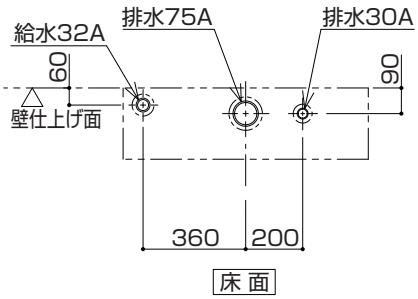
注　：各製品の消費電力を確認の上、電気工事を行ってください。
注1：AC100V　50／60Hz
　　定格消費電力：常時2W以下、バルブ作動時4W以下
注2：AC100V　50／60Hz
　　定格消費電力：600W　電源コードの長さ：1.0m
注3：フラッシュバルブコントローラセットはフラッシュバルブ本体、洗浄ボタンと結線する中継コード：1.0m
　　フラッシュバルブ本体と結線する中継コード：1.0m
　　及び洗浄ボタンとそれぞれ中継コードで結線します。
注4：配線は壁埋め込みとしてください。露出配線した場合は、鏡キャビネットが取り付けできません。

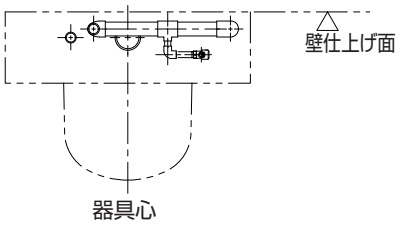
事前施工情報　配管工事（水道水の場合）

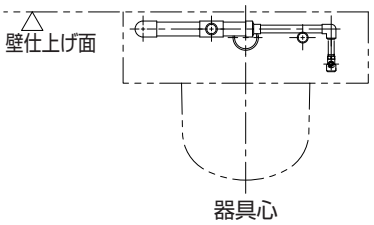
XPSA71系　左右壁対応の場合
XPSA72系　左側壁仕様の場合

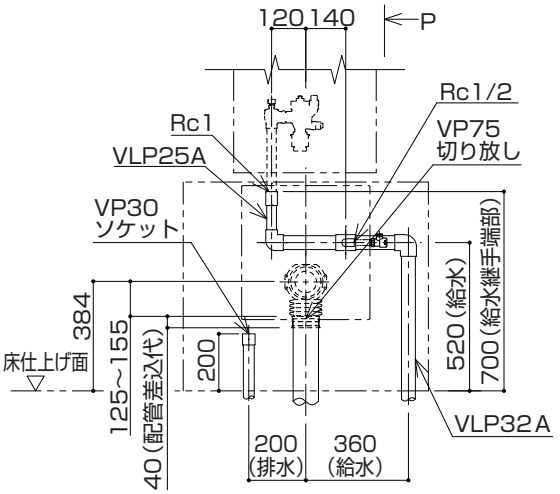


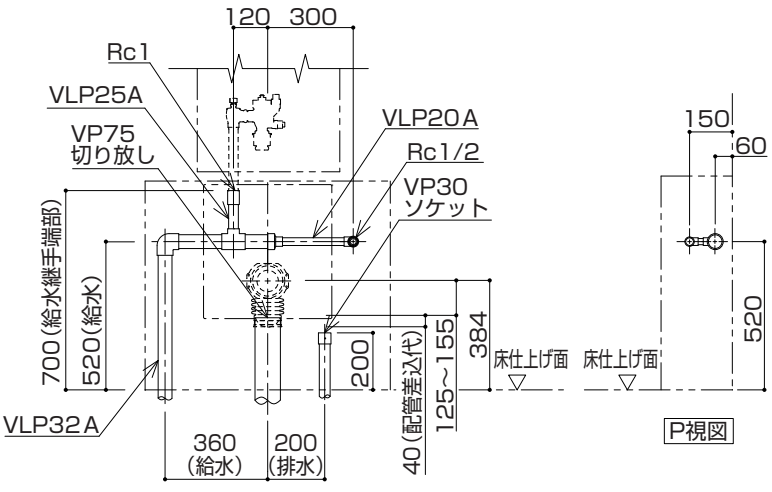
XPSA71系　左右壁対応の場合
XPSA73系　右側壁仕様の場合







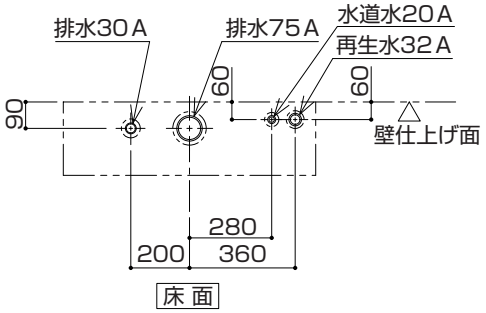


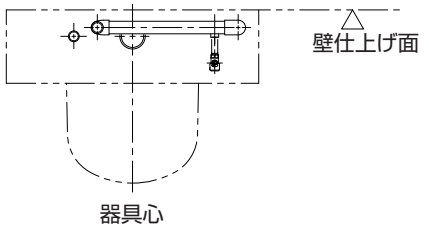


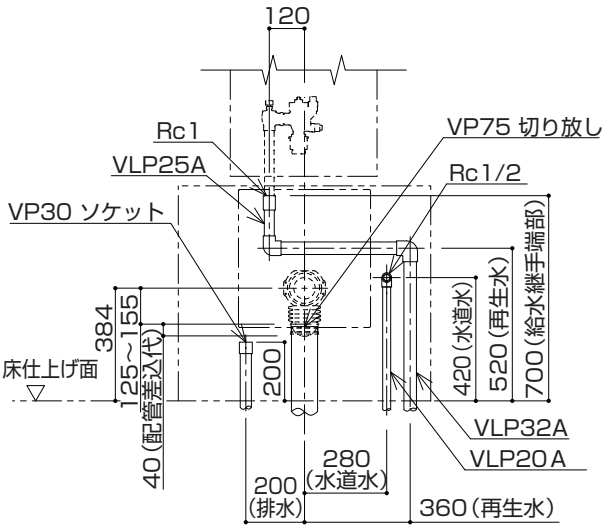
注：給水は図に示す位置に末端Rc1（1ヶ所）、及びRc1/2（1ヶ所）でご準備ください。
　　Rc1で準備した給水管にはフラッシュバルブが、Rc1/2で準備した給水管には止水栓が接続されます。
　　必ず絶縁継手にて配管と接続してください。
注：排水は図の位置にVP75切り放しでご準備ください。
　　排水管は順勾配1/100を確実に確保してください。
　　ライニング内に通気管を通すことができませんので、排水はそれぞれ各個抜きにてご準備ください。
注：配管は躯体壁などに確実に固定してください。
注：給水最低必要水圧0.07MPa（流動時）、最高水圧0.75MPa
　　※実使用上はフラッシュバルブのウォーターハンマーが起きにくくなるよう、0.2MPa以下程度の水圧を推奨します。
注：汚物流しの給水スパッド締付けの作業性向上が図れる専用工具も用意しております。
　　必要に応じて別途手配ください。
　　品番：UTR900S

事前施工情報　配管工事（再生水の場合）

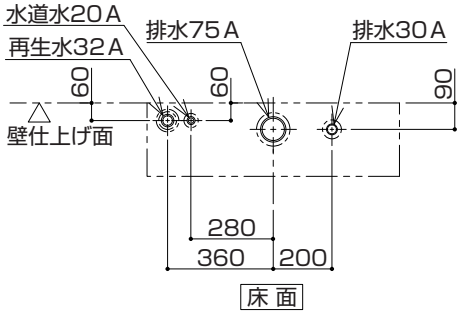
XPSA71系　左右壁対応の場合
XPSA72系　左側壁仕様の場合

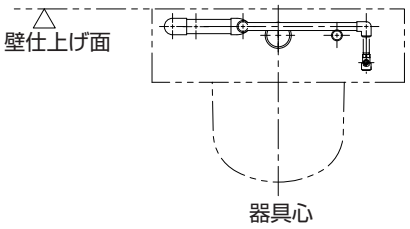


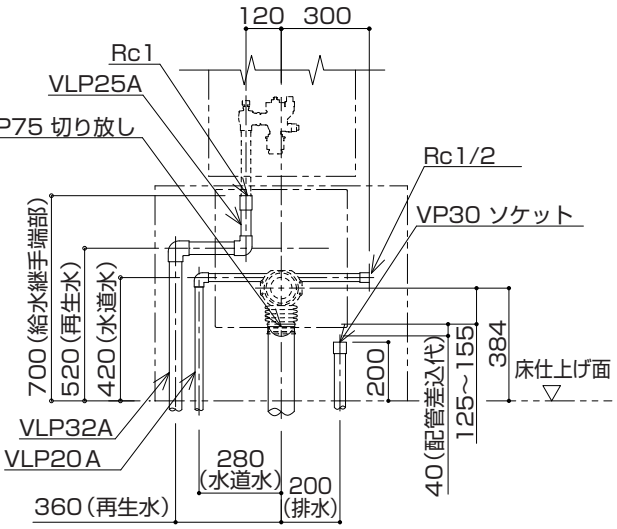




XPSA71系　左右壁対応の場合
XPSA73系　右側壁仕様の場合







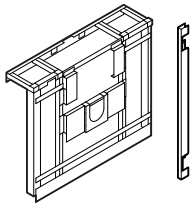
注：給水は図に示す位置に末端Rc1（1ヶ所）、及びRc1/2（1ヶ所）でご準備ください。
　　Rc1で準備した給水管にはフラッシュバルブが、Rc1/2で準備した給水管には止水栓が接続されます。
　　必ず絶縁継手にて配管と接続してください。
注：排水は図の位置にVP75切り放しでご準備ください。
　　排水管は順勾配1/100を確実に確保してください。
　　ライニング内に通気管を通すことができませんので、排水はそれぞれ各個抜きにてご準備ください。
注：配管は躯体壁などに確実に固定してください。
注：給水最低必要水圧0.07MPa（流動時）、最高水圧0.75MPa
　　※実使用上はフラッシュバルブのウォーターハンマーが起きにくくなるよう、0.2MPa以下程度の水圧を推奨します。
注：汚物流しの給水スパッド締付けの作業性向上が図れる専用工具も用意しております。
　　必要に応じて別途手配ください。
　　品番：UTR900S

部品の確認

フレーム

STEP 3

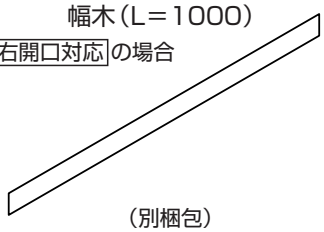
フレーム本体



フィラー受け材は
フレームにテープとめ

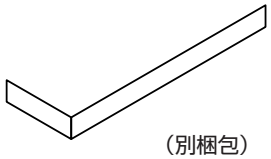
STEP 7

幅木（L＝1000）
左右開口対応の場合



（別梱包）

L形幅木
左側壁仕様 右側壁仕様の場合

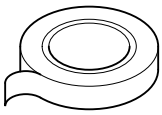


（別梱包）

フレーム部品箱

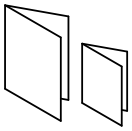
STEP 7 9

両面テープ



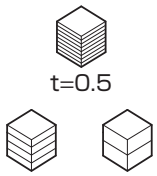
左右間口対応の場合：1巻
左側壁・右側壁間仕様の場合:2巻

施工説明書・取扱説明書



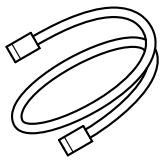
STEP 9

ライナー各調整用



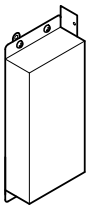
STEP 23

連結線



STEP 23

コントローラーセット

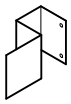


タッピンねじ
（φ4×12）

×2

STEP 3

幅木受け材

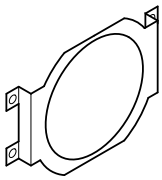


タッピンねじ
（φ4×8）

×2

STEP 5

ソケット押え板



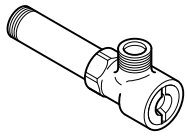
タッピンねじ
（φ4×8）

×4

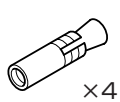
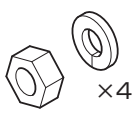
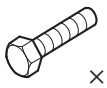
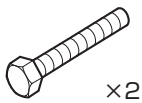
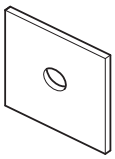
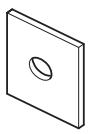
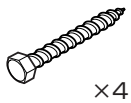
STEP 6

止水栓

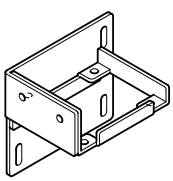
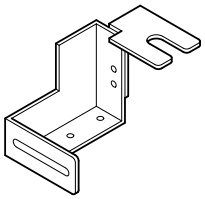
汚物流し電温用



STEP 2 4

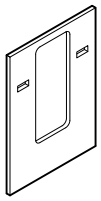
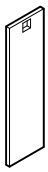
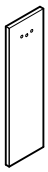
フレーム固定セット（床壁固定用）						
RC壁・床固定用					耐水合板下地壁固定用	
グリップアンカー M8	ナットM8 ばね座金付き	六角ボルト M8×50	六角ボルト M8×80	ワッシャー	大形角M6	コーチねじ φ6×50
 ×4	 ×4	 ×2	 ×2	 ×4	 ×4	 ×4

STEP 13

フラッシュバルブ固定セット	
フラッシュバルブ支持材／固定材	洗浄管／バキュームブレーカー支持材
 タッピンねじ（φ4×12） ×4	 タッピンねじ（φ4×8） ×2

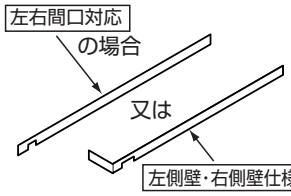
前面板

STEP 10

前面板（汚物流し裏）	点検口（洗浄ボタン側）	点検口（紙巻器側）	側面板
			左側壁仕様 右側壁仕様 の場合

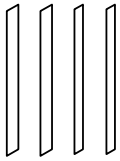
STEP 9

底目地



STEP 9

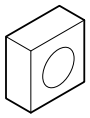
フィラー（70mm幅・50mm幅）



左右開口対応 の場合:各2枚
左側壁・右側壁仕様 の場合:50mm幅1枚

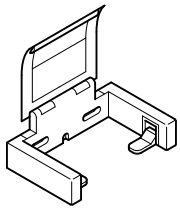
STEP 27

洗浄ボタン



STEP 28

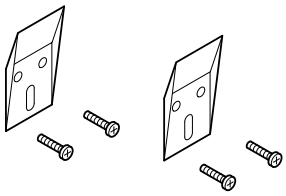
紙巻器



前面板部品箱

STEP 10

バックハンガー

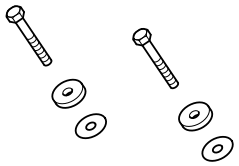


STEP 14

スパッド

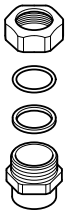
STEP 15

便器取付ボルト



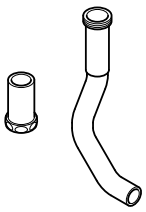
STEP 21

ソケット



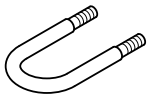
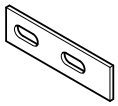
STEP 16

洗浄管



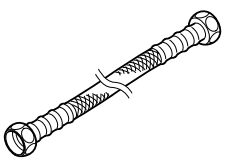
STEP 16

洗浄管取付用

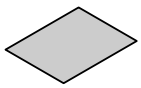
Uボルト	絶縁シート	座付きナットM6
		×2

STEP 20

フレキホース（L＝1300）



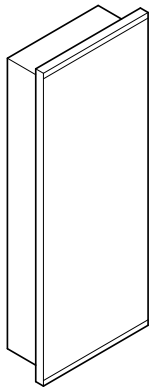
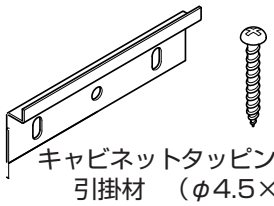
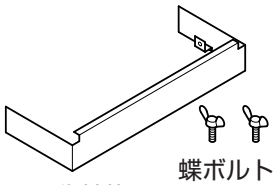
使い方ラベル

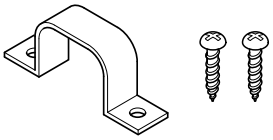
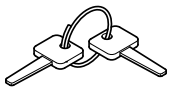


※全ての作業終了後にはり付けを行います。
大切に保管してください。

鏡キャビネット

STEP 12

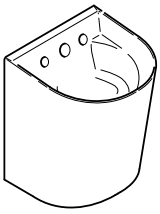
鏡キャビネット（本体）	本体固定ねじ（φ4.5×50）	キャビネット引掛材セット	化粧枠セット
	×6	 ×3 キャビネットタッピンねじ 引掛材 （φ4.5×40）	 化粧枠 蝶ボルト （M4×10）

サドルバンドセット	カギ
 タッピンねじ サドルバンド（φ4×12）	

汚物流し・水栓金具・カウンター等

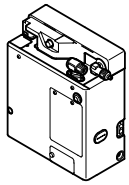
STEP 15

汚物流し



STEP 20

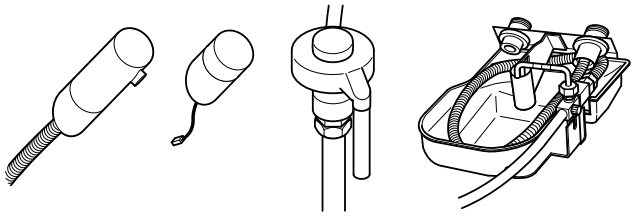
電気温水器



※取付ねじは同梱

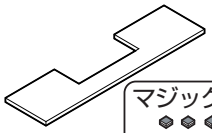
STEP 17

洗浄ボタン水栓



STEP 11

カウンター



マジックテープ
透明と黒それぞれ
×10（予備：2）

STEP 17

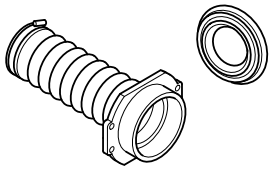
フラッシュバルブ

※取付小ねじは同梱

取付小ねじ
×4

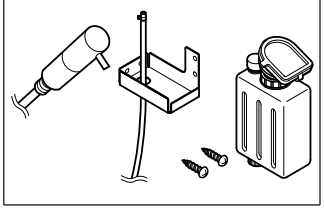
STEP 5 14

単独排水継手・パッキン



STEP 14 22

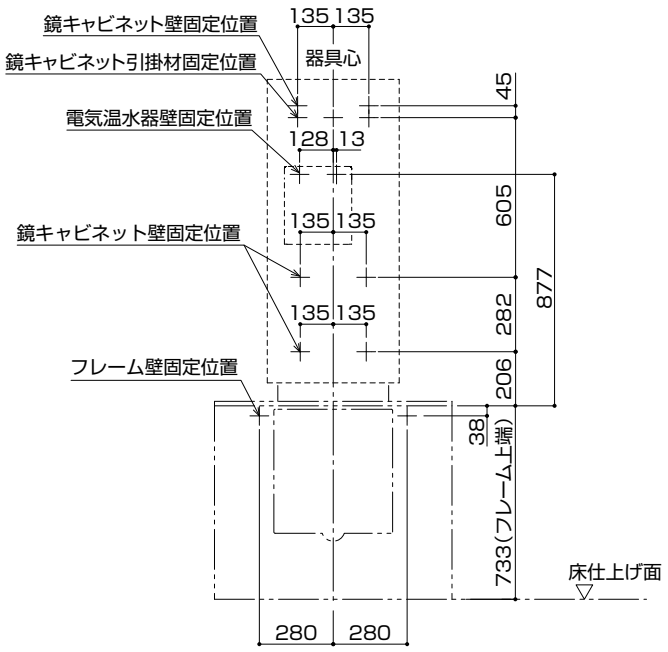
水石けん供給栓



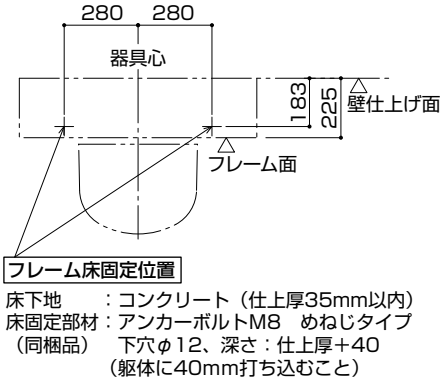
STEP1 墨出し

下図、または商品図を参照して、器具心・床／壁固定位置を墨出しします。

■壁固定部



■床固定部



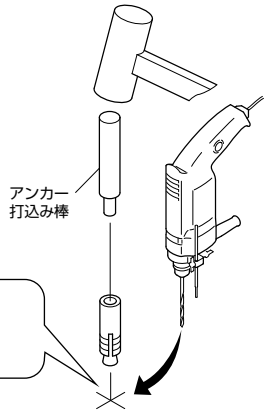
床下地　　：コンクリート（仕上厚35mm以内）
床固定部材：アンカーボルトM8　めねじタイプ
（同梱品）　下穴φ12、深さ：仕上厚+40
（躯体に40mm打ち込むこと）

STEP2 床・壁の固定用部材の施工

①墨出し位置に床固定用アンカーを打ち込みます。

> **指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する**
> 所定強度を発揮できません。

同梱のアンカー以外を使用する場合は、その注記にしたがい施工してください。

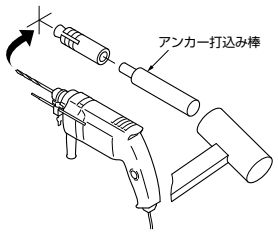


グリップアンカーM8
下穴φ12　深さ：仕上げ厚+40
（躯体に40mm打ち込むこと）

②墨出し位置に壁固定用アンカーを打ち込みます。

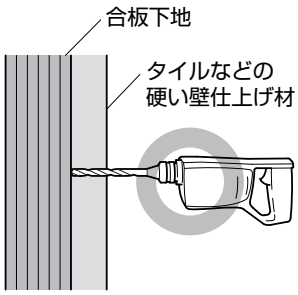
下地によって、使用する固定部材が異なりますので、各部材の固定ねじに応じた固定部材を使用してください。

壁下地	壁固定材			固定箇所数
コンクリート下地	グリップアンカーM8 （下穴φ12　深さ：仕上げ厚+40mm） （躯体に40mm打ち込むこと）		フレームに同梱	2



指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する
所定強度を発揮できません。

壁下地	壁固定材			固定箇所数
耐水合板下地	コーチねじ（φ6×50）		フレームに同梱	2

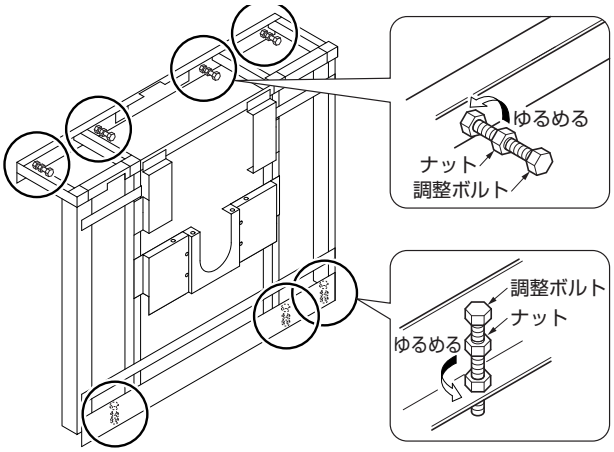


ポイント
●合板下地で、タイルや化粧ケイカル板など表面が硬い仕上げ材の場合は、ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぐため、仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴を仕上げ材にあけておくことをおすすめします。

STEP3 フレームの仮設置

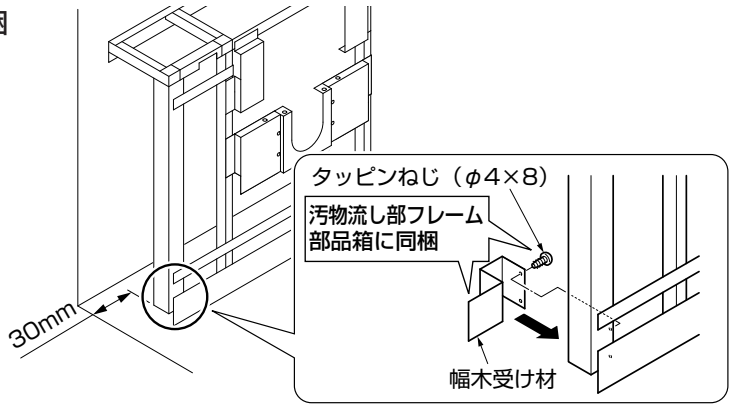
1 フレーム仮置きの準備

床・壁の調整ボルトを固定しているナットをゆるめ、調整ボルトをまわせるようにしておきます。



2 幅木受け材の取り付け

※幅木受け材は汚物流し部フレーム部品箱に同梱
フレームを仮置きし、フレーム側面と壁とのすき間が30mm以上ある場合、幅木受け材を汚物流し部フレームの縦フレームにタッピンねじ（φ4×8）2本で取り付けます。
30mm未満の場合は、取り付け不要です。

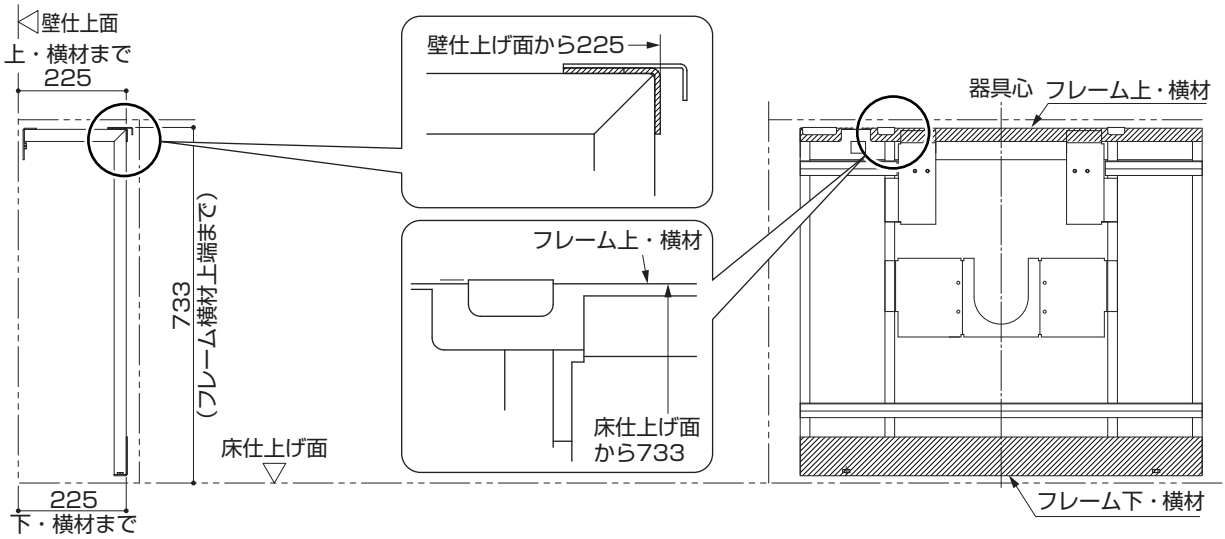


3 フレームの仮設置

①取付位置に合わせて、フレームを仮置きします。
②調整ボルトで汚物流し中心、フレームの高さ、水平などの位置調整をします。
（目安　床面とのすき間：15mm、壁面とのすき間：10mm）

チェック
●フレームの水平・垂直が出ていないと、前面板・カウンターなどの仕上材取り付け時に、すき間が不ぞろいになるなどの原因になります。
必ず水準器や下げ振りなどを使用し、建築壁に頼らず正しく位置出ししてください。

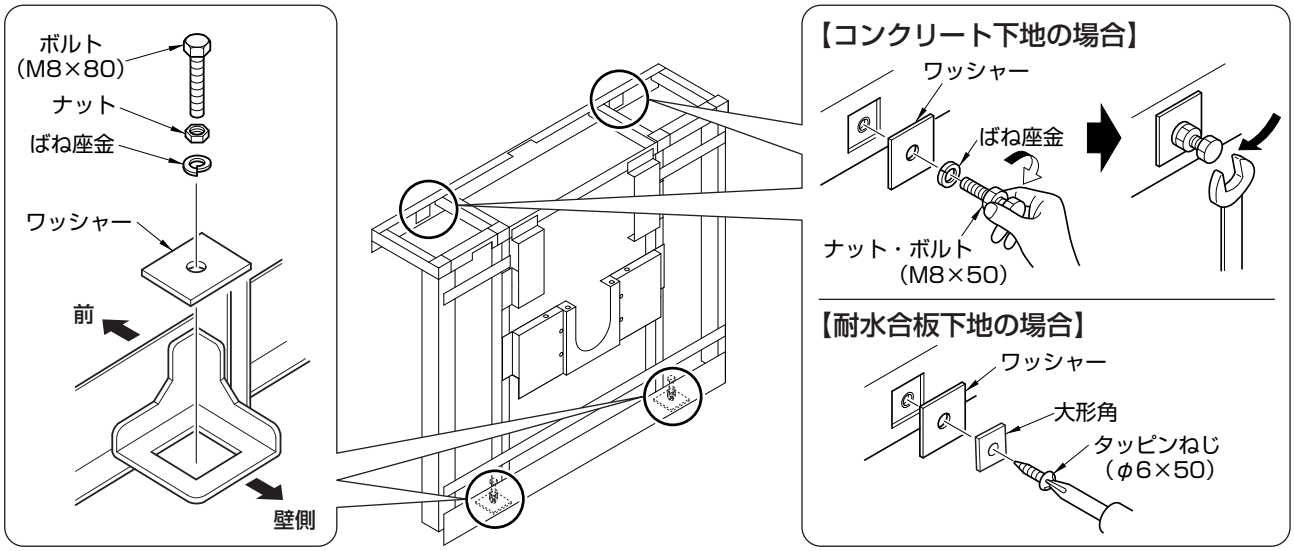
③位置出し完了後、ナットを締め込んで調整ボルトを固定します。



STEP4 フレームの本固定

床（2カ所）、壁（2カ所）を固定します。
※フレーム固定セットは汚物流し部フレーム部品箱に同梱

フレームを確実に固定する
フレームが倒れたり、汚物流しの落下により、けがをするおそれがあります。



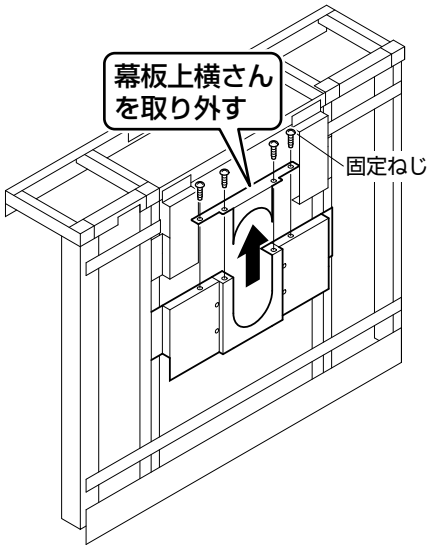
チェック
●フレームの設置位置が正確か確認してください。
位置がずれている場合は、固定ボルトをゆるめて正しい位置に調整してください。

STEP5 排水継手の取り付け

本施工説明書に記載していない事項は、単独排水管継手の施工説明書を参考にしてください。

①幕板上横さんを取り外します。

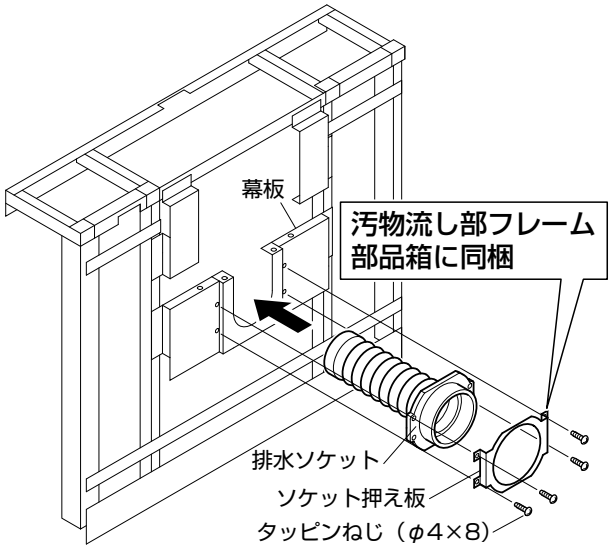
取り外した幕板上横さん・固定ねじは後で元の状態に取り付けますので、捨てずに保管してください。



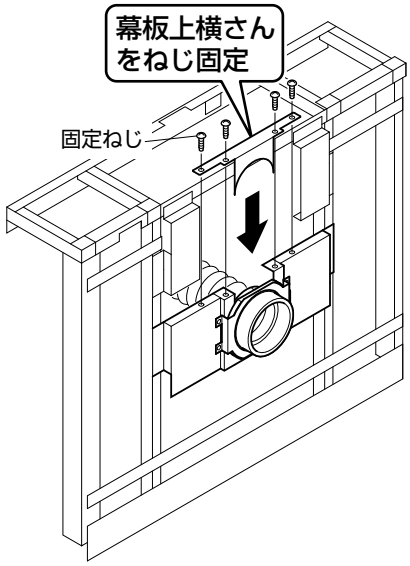
②排水管継手を前面から幕板に挿入し、取り外したソケット押え板を排水ソケット前面からかぶせて幕板にタッピンねじ（φ4×8）で固定します。

チェック
●排水ソケットが幕板とソケット押え板の中で上下左右に動くことを確認してください。

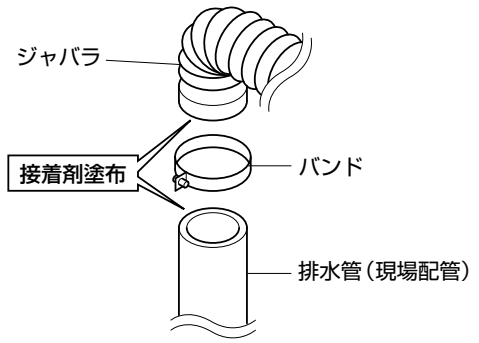
パッキンは陶器固定の際に使用しますので、捨てずに保管してください。



③取り外した幕板上横さんを元の位置にねじ固定します。



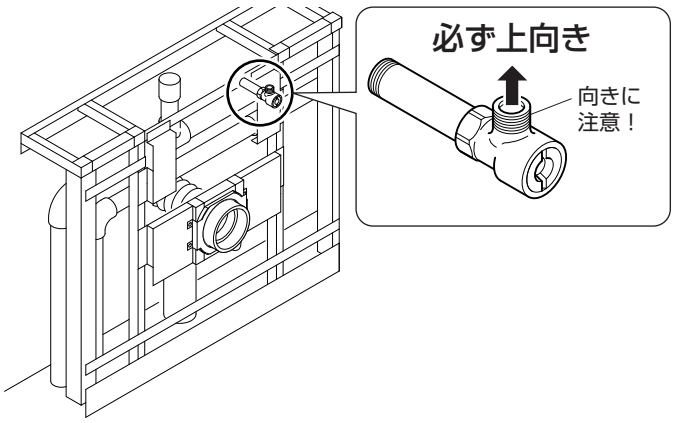
④排水管にジャバラを接続します。
接続は、硬質塩化ビニル管用接着剤で接着後、バンドで固定してください。
※ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続してください。



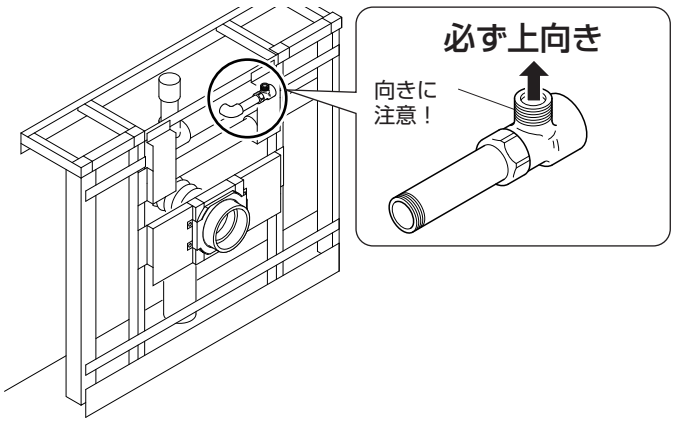
STEP6 止水栓の取り付け

止水栓を給水管に接続します。
※止水栓はフレーム部品箱に同梱

左側から給水を立ち上げた場合



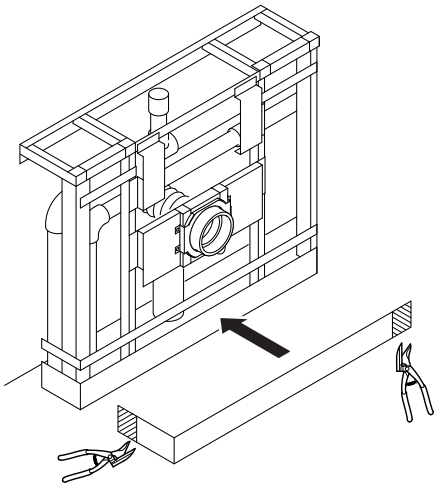
右側から給水を立ち上げた場合



チェック ●止水栓の向きは必ず上向きにしてください。
連結するホースが届かないことがあります。

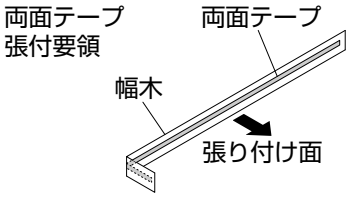
STEP7 幅木の取り付け

※幅木の端部は建築壁に合わせ必ず切断してください。
調整できるよう長めにしてあります。
幅木の養生フィルムをはがし、フレームに同梱の両面テープで
幅木を取り付けます。

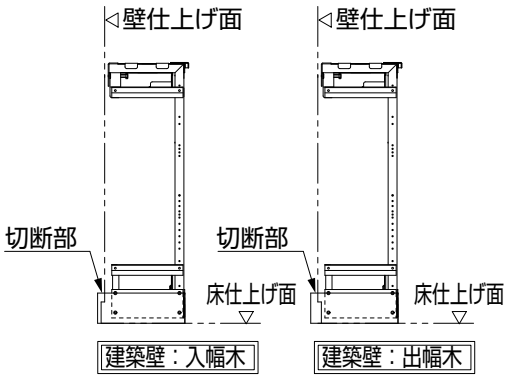


左側壁仕様・右側壁仕様 の場合

①両面テープ接着する前に切断寸法を確認します。
②金切はさみで切断します。
③幅木の養生フィルムをはがします。
④両面テープを幅木の中央付近に1本、端から
端まで張り付けます。



※両面テープは長さに限りがあります。2本
以上は張らないでください。
⑤フレームに幅木を張り付けます。



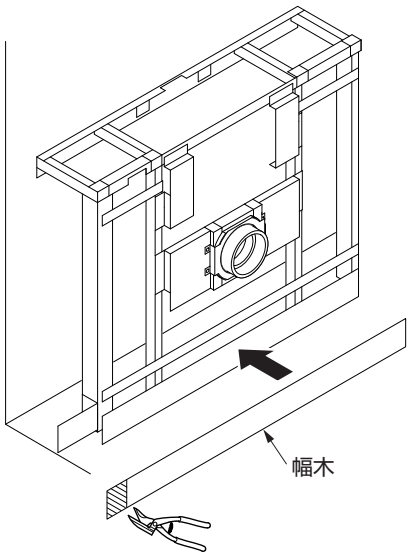
※上図を参考に現場ごとで責任者と
調整し納まりを確認してください。

チェック ●幅木と床面、幅木端部と壁面のすき間
がないように取り付けてください。

左右開口対応 の場合

①両面テープ接着する前に切断寸法を確認します。
②金切はさみで切断します。
③幅木の養生フィルムをはがします。
④両面テープを幅木の中央付近に1本、端から端まで張り付けます。
※両面テープは長さに限りがあります。2本以上は張らないでください。
⑤フレームに幅木を張り付けます。

チェック
●幅木と床面、幅木端部と壁面のすき間がないように取り付けてください。



STEP8 底目地受け材・フィラー受け材の取り付け

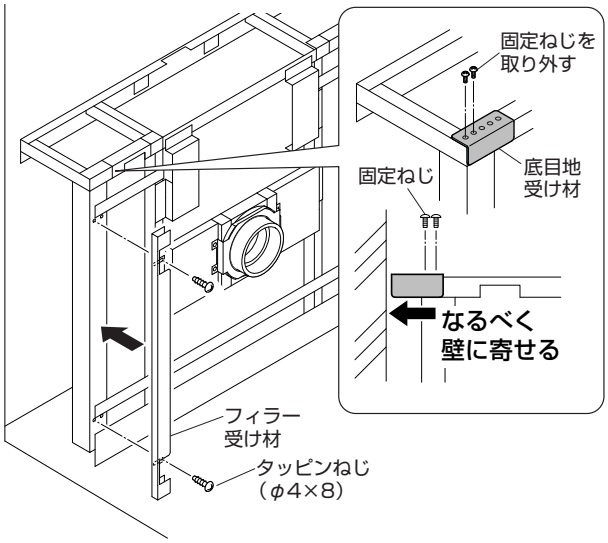
1 底目地受け材の位置調整

側面壁側の底目地受け材の固定ねじ（2本）を取り外し、底目地受け材を側面壁とのすき間が小さくなる下穴位置（2カ所）でねじ固定してください。
※左右間口対応の場合は両側行ってください。

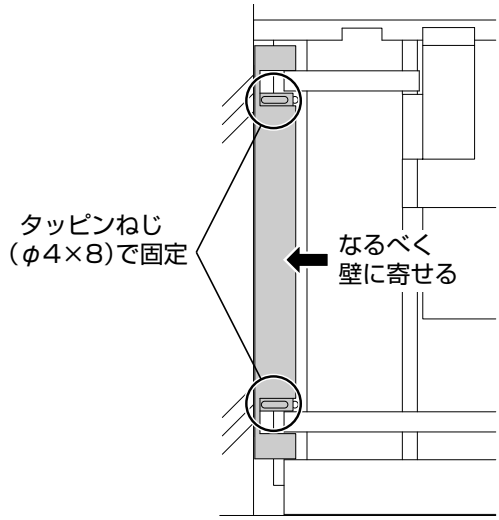
2 フィラー受け材の取り付け

※フィラー受け材と固定ねじはフレームにテープ止めしてあります。
側面壁側の縦フレームにフィラー受け材を取り付けます。
フレームとフィラー受け材の下穴を合せて、タッピンねじ（φ4×8）で上下1カ所ずつ固定します。
側面壁とのすき間が小さくなる下穴位置で固定してください。
※左右間口対応の場合は両側行ってください。

チェック
●フィラー受け材は、壁とのすき間を埋めるフィラーを張り付ける下地になるので、なるべく壁に寄せて取り付けてください。



【左側壁面の場合】
右側側面の場合も同様です。



STEP9 底目地材の張り付け

1 底目地材の張り付け

①底目地受け材に両面テープを張り付けます。

※フレーム部品箱に同梱のライナー（t=3.0）を使用します。
ライナーの張り付け要領・位置は下図を参照ください。

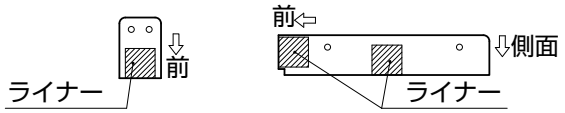
チェック

●両面テープを張る前に、底目地受け材のほこりを取り除いてください。

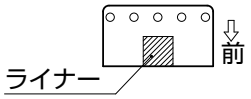
ライナーの張り付け要領

底目地受材の前・側面の中央付近に張り付けのこと

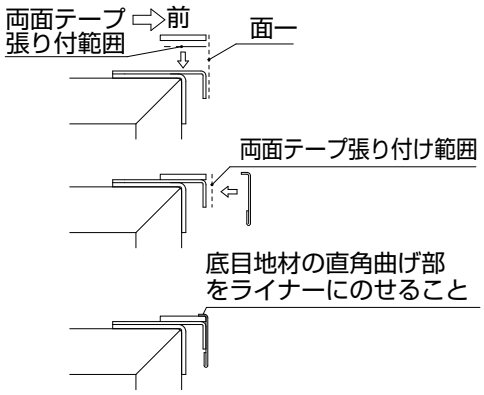
幅狭の底目地受材の場合　側面の底目地受材の場合

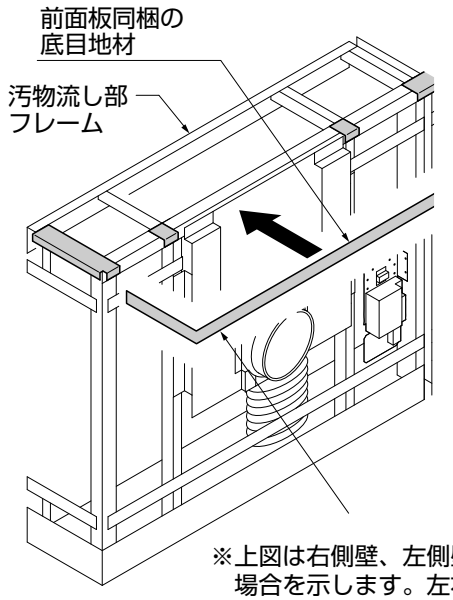


幅広の底目地受材の場合



ライナーの張り付け位置





※上図は右側壁、左側壁仕様の場合を示します。左右間口対応の場合はL型ではなく一本物になります。

チェック

●取付前に養生フィルムをはがしてください。

●フィラーの裏面のほこりを取り除いてください。

ポイント

●両面テープは接着力が強く、張り直しができませんので、十分注意して張ってください。

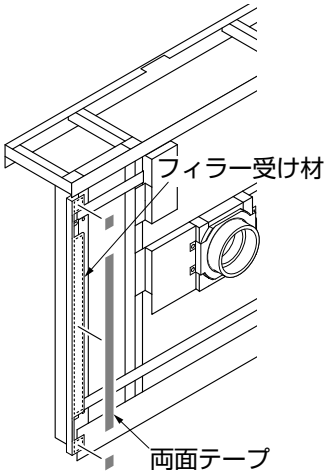
●壁面とすき間が無いよう、表裏を間違えないようにフィラーを張り付けてください。

【フィラー断面】

2 フィラーの張り付け

①フィラー受け材に両面テープを張ります。

チェック
●両面テープを張る前に、フィラー受け材のほこりを取り除いてください。

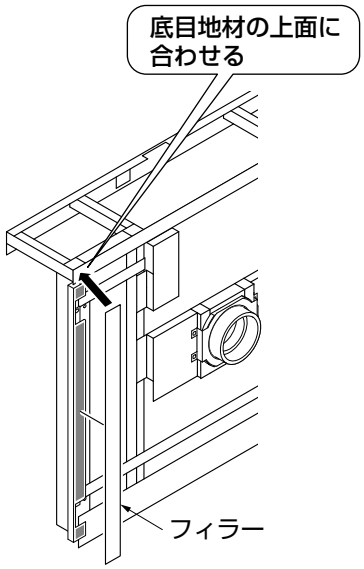


②フィラーを底目地上面に合わせながら張り付けます。

チェック
●取付前に養生フィルムをはがしてください。
●フィラーの裏面のほこりを取り除いてください。

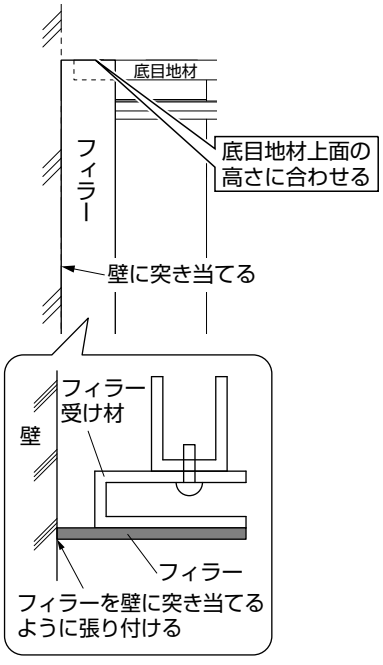
ポイント
●両面テープは接着力が強く、張り直しができませんので、十分注意して張ってください。
●壁面とすき間が無いよう、表裏を間違えないようにフィラーを張り付けてください。

【フィラー断面】



左右開口対応 の場合は、幅50mmと70mmの2種類のフィラーを壁と縦フレームとのすき間の大きさによって使い分けます。

壁と縦フレームの隙間寸法	0～30mm	30～50mm
使用するフィラー幅	50mm	70mm

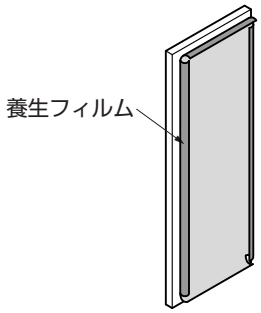


STEP10 前面板の仮設置／調整

1 養生フィルムはがし

全ての前面板の養生フィルムの側面のみをはがします。

※器具が取り付く前面板については側面に加え器具の取り付く範囲もはがしてください。

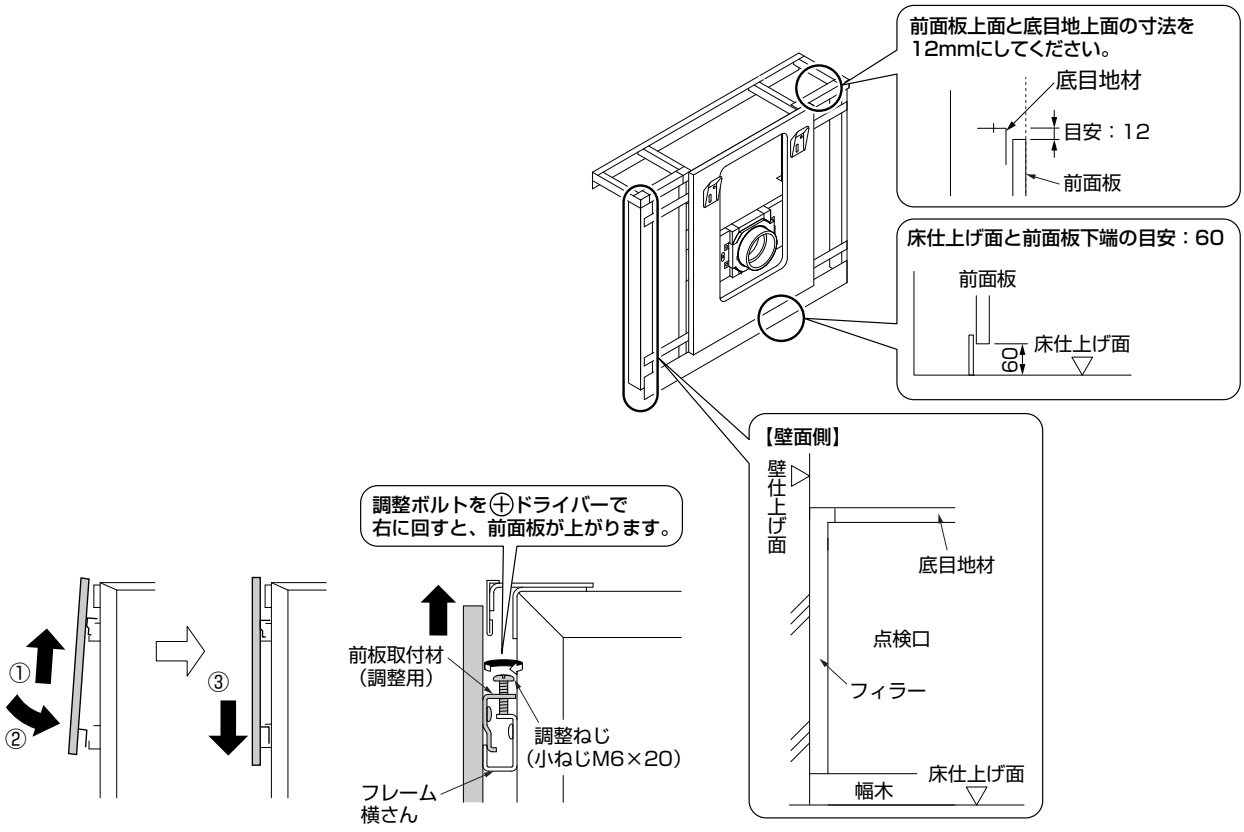


2 前面板の調整

前面板をフレーム横さんに引っ掛けて仮設置し、調整ねじで取付高さ・水平・垂直を調整します。

チェック

- ●前面板の取付前に、養生フィルムをはがしてください。
- ●前面板の取付材が上下ともフレームに引っかかっていることを確認してください。
- ●向かって右側に紙巻器用（3穴）、左側に洗浄ボタン用（口穴）の前面板が取り付きます。



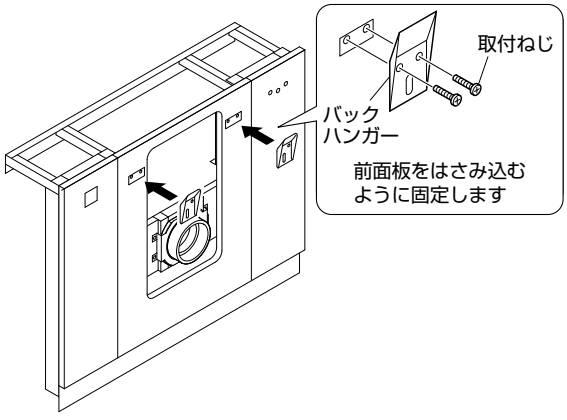
3 バックハンガーの取り付け

※バックハンガーは前面板部品箱に同梱

①汚物流し器具裏前面板の養生フィルムをはがします。

②バックハンガーをバックハンガーに同梱の取付ねじでフレームに取り付けます。

※バックハンガーの固定は上部2カ所です。長穴部分の固定はしません。



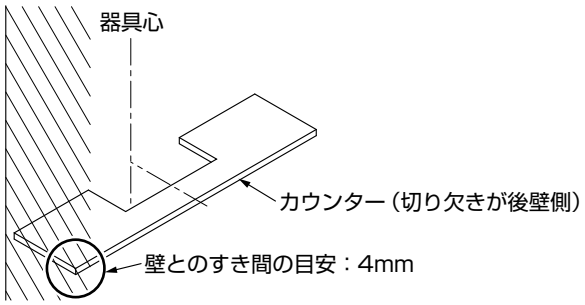
STEP11 カウンターの仮設置

※次STEPでカウンターは取り外しますが、このSTEPで長さ調整をしてください。

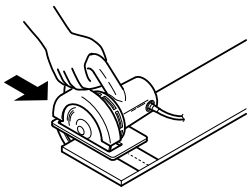
傷つき防止のため、カウンターの養生フィルムは、取付完了まではがさないでください。
ただし、マジックテープ張り付け箇所は養生フィルムをはがしてください。

1 カウンターの切断（左右間口対応の場合のみ）

器具心を基準にしてカウンターを所定の長さに切断します。
切断寸法は壁の倒れや開きなど現場に応じて決めてください。
壁とのすき間は4mmになるよう切断してください。



チェック ●軽く押し切れるスピードで切断してください。



チェック ●マスキングテープを張る。（チッピングや工具台座による傷を防止します。）

ポイント ●切断木口は、必要に応じてディスクグラインダーで削ると美しく仕上ることができます。

ポイント ●切り落とす最後の部分は欠けが生じやすいので、切断終了直前には切り落とす側の支持を行ってください。

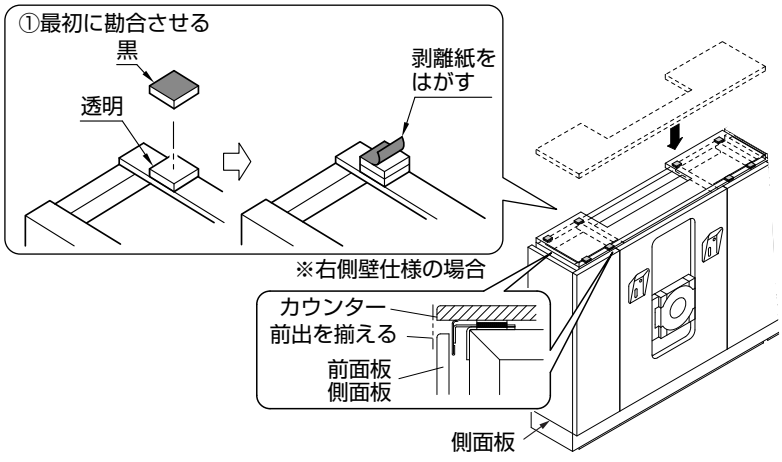
2 カウンターの固定

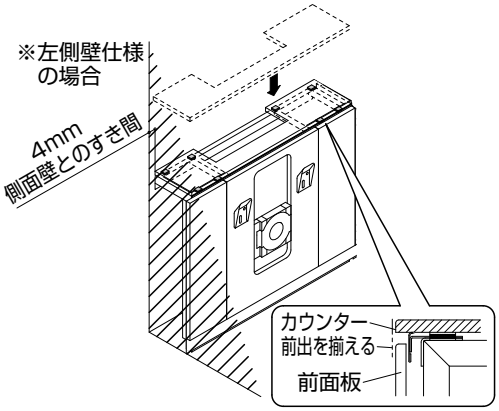
①汚物流し部フレーム上面8カ所のマジックテープ（透明）の上にマジックテープ（黒）を軽く勘合させます。

チェック ●マジックテープ張り付けの前にカウンター設置面の汚れ、ほこりを取り除いてください。

②カウンターを下図のようにのせマジックテープをカウンターに接着させます。カウンターの左右・前後方向の位置調整をします。

前後方向は前面板を基準とします。（下図参照）
右側壁、左側壁仕様の場合、左右方向調整は、側面板を基準とします。（下図参照）





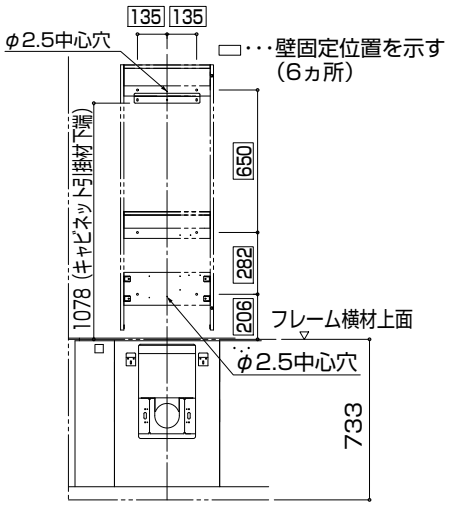
STEP12 鏡キャビネットの設置

設置作業にあたっては、カウンターの傷つき防止のためカウンターは、取り外して作業してください。
取り外したカウンターは後で設置するまで傷つきや破損のないよう大切に保管してください。

1 鏡キャビネットおよび引掛材の固定位置出し

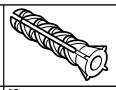
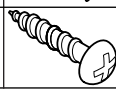
商品図・事前施工情報（右図）をもとに、キャビネット引掛材およびキャビネット本体の壁固定位置を墨出ししてください。

ポイント
- ●鏡キャビネットの器具心穴と汚物流しの器具心が合うように位置出ししてください。
- ●レーザー墨出器を使用することをおすすめします。



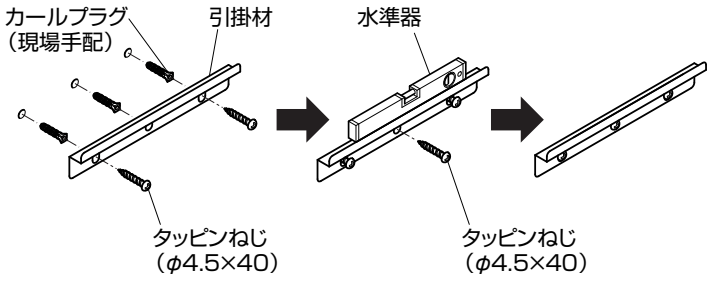
2 キャビネット引掛材の固定

キャビネット引掛材を3カ所固定します。固定は壁下地に合った固定部材を使用してください。

壁下地	壁固定材		
コンクリート（仕上げ厚35mm以内）	カールプラグ（タッピンねじφ4.5下穴深さ40）		現場手配
耐水合板下地	タッピンねじφ4.5×40		キャビネットに同梱

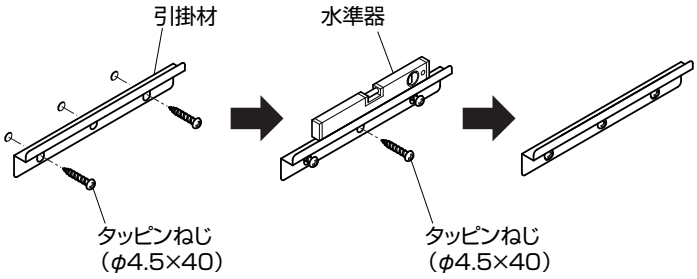
コンクリート下地の場合

①引掛材の固定位置3カ所に下穴をあけて、カールプラグ（現場手配）を打ち込みます。
②引掛材を固定位置に合わせ、長穴2カ所をタッピンねじで仮止めします。
③引掛材の中心、水平を確認しながら3カ所とも本固定します。

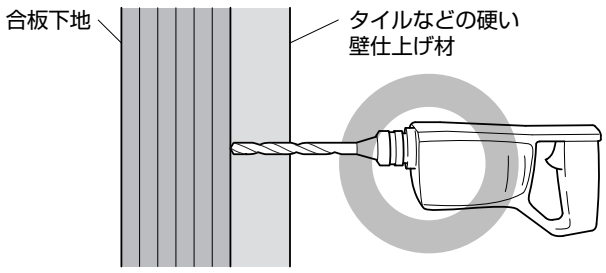


耐水合板下地の場合

①引掛材を固定位置に合わせ、長穴2カ所をタッピンねじで仮止めします。
②引掛材の中心、水平を確認しながら3カ所とも本固定します。



ポイント
- ●合板下地で、タイルや化粧ケイカル板など表面が硬い仕上げ材の場合は、ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぐため、仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴を仕上げ材にあけておくことをおすすめします。

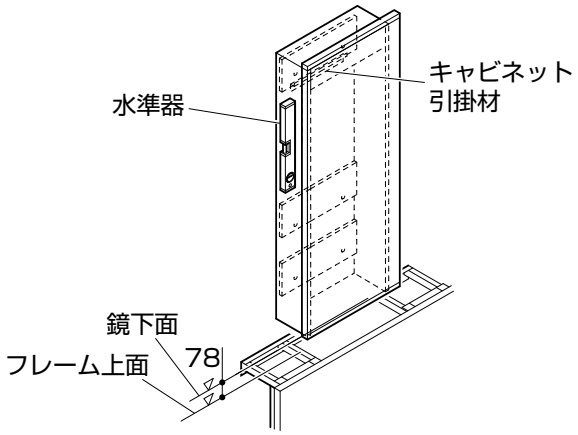


3 鏡キャビネットの位置出し

キャビネット引掛材にキャビネット本体を引っ掛け、キャビネットの取付位置を調整します。

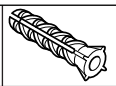
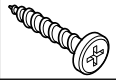
ポイント

●鏡キャビネットの器具心と汚物流しの器具心が合うように位置出ししてください。



4 鏡キャビネットの固定

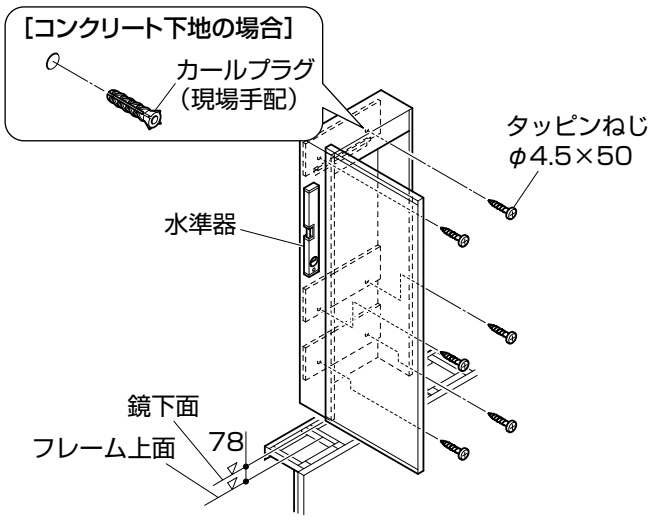
キャビネット本体を6カ所固定します。
固定は壁下地に合った固定部材を使用してください。

壁下地	壁固定材		
コンクリート（仕上厚35mm以内）	カールプラグ（タッピンねじφ4.5下穴深さ40）		現場手配
耐水合板下地	タッピンねじφ4.5×50		キャビネットに同梱

コンクリート下地の場合

①キャビネット本体の固定位置6カ所に下穴をあけて、カールプラグ（現場手配）を打ち込みます。

②キャビネット本体の上部横さんを引掛材に載せ、器具心、垂直を確認しながらタッピンねじ（φ4.5×50）で6カ所固定します。



耐水合板下地の場合

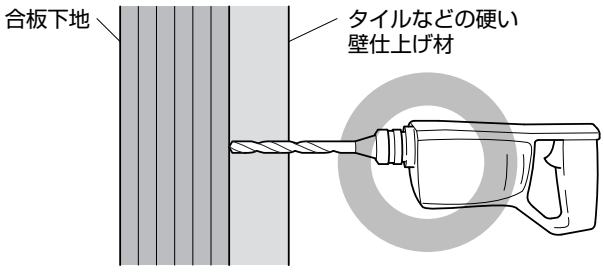
キャビネット本体の上部横さんを引掛材に載せ、中心、水平を確認しながら6カ所固定します。

ポイント

●鏡キャビネットの器具心と汚物流しの器具心が合うようにしてください。鏡下端とフレーム上面のすき間は78mmが目安です。

ポイント

●合板下地で、タイルや化粧ケイカル板など表面が硬い仕上げ材の場合は、ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぐため、仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴を仕上げ材にあけておくことをおすすめします。

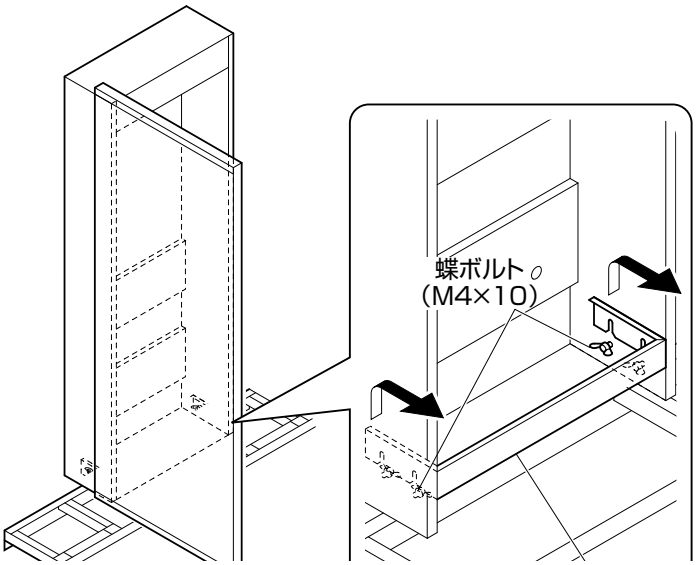


5 キャビネット下部横さんの取り外し

キャビネット取り付け後、キャビネット下部横さんを固定している蝶ボルトをゆるめて、キャビネット下部横さんを取り外します。

取り外したキャビネット下部横さんと蝶ボルトは、後の作業で取り付けますので、捨てずに保管してください。

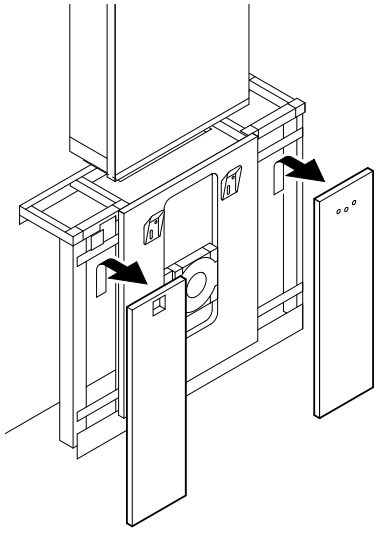
※キャビネット下部横さんは、蝶ボルトをゆるめるだけで取り外すことができます。



6 前面板の取り外し

前面板を残し、汚物流し左右の点検口を取り外します。

取り外した点検口は、後で設置するまで、傷つきや破損しないように、大切に保管してください。

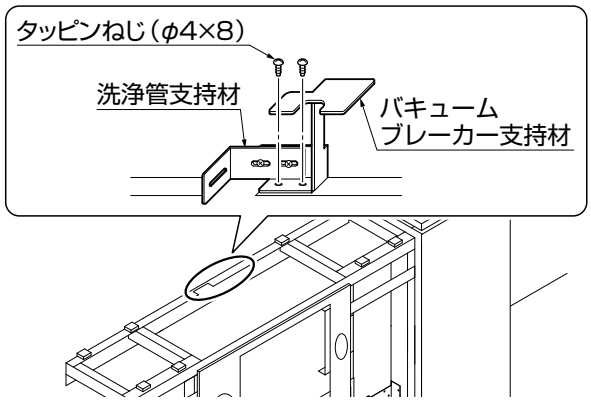


STEP13 フラッシュバルブの取り付け

※フラッシュバルブ固定セットはフレーム部品箱に同梱

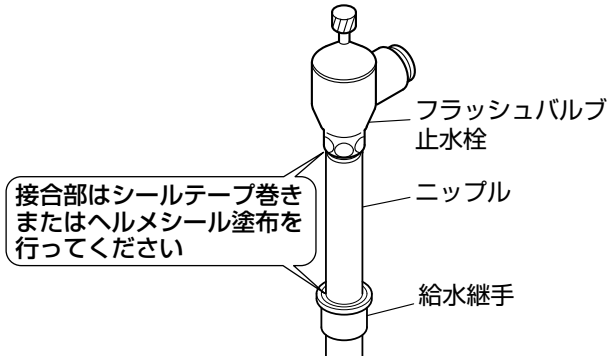
1 フラッシュバルブの取り付け準備

洗浄管／バキュームブレーカー支持材をタッピンねじ（φ4×8）でフレームに取り付けます。



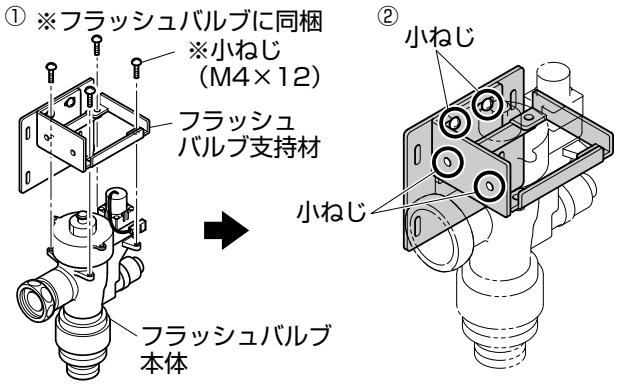
2 フラッシュバルブ止水栓の取り付け

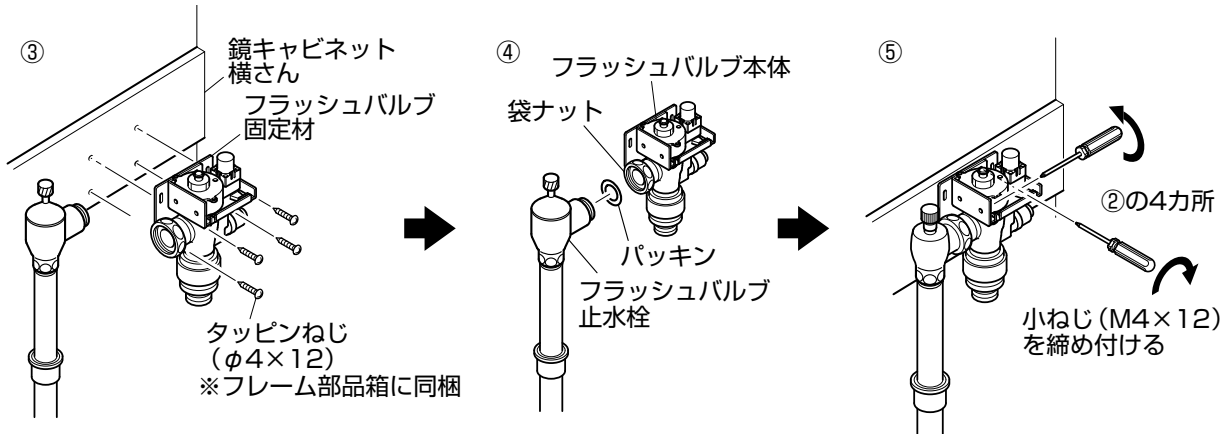
フラッシュバルブ止水栓と給水管を同梱のニップルを介して接続します。
その際、シールテープまたはヘルメシールの塗布を行ってください。



3 フラッシュバルブ本体の取り付け

①フラッシュバルブ支持材をフラッシュバルブ本体に小ねじ（M4×12）で取り付けます。
②フラッシュバルブ支持材・調整材4カ所の小ねじをゆるめます。
③鏡キャビネット横さんにフラッシュバルブ固定材を上下に動くよう仮固定します。
④フラッシュバルブ本体と止水栓を接続します。フラッシュバルブ本体の袋ナットを締め付けて接続してください。
⑤フラッシュバルブの位置が決まったら支持材・調整材の小ねじ4カ所と固定材のタッピンねじ4カ所を本固定してください。



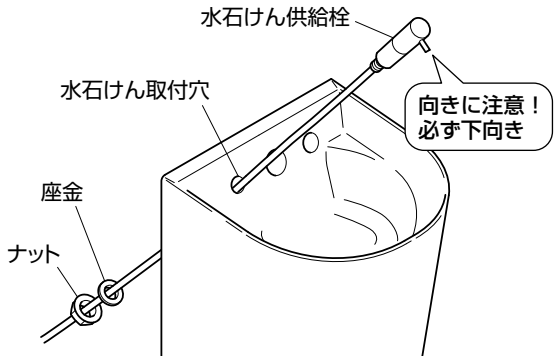


STEP14 汚物流しの取付準備

1 水石けん供給栓の取り付け

水石けん供給栓に同梱の施工説明書を参考に施工してください。

汚物流しの取付穴に水石けん供給栓本体を吐水口が下を向くように挿入し、裏側からナットで固定します。



2 スパッドの取り付け

汚物流しの取付穴にスパッドを取り付けます。

※スパッドは前面板部品箱に同梱

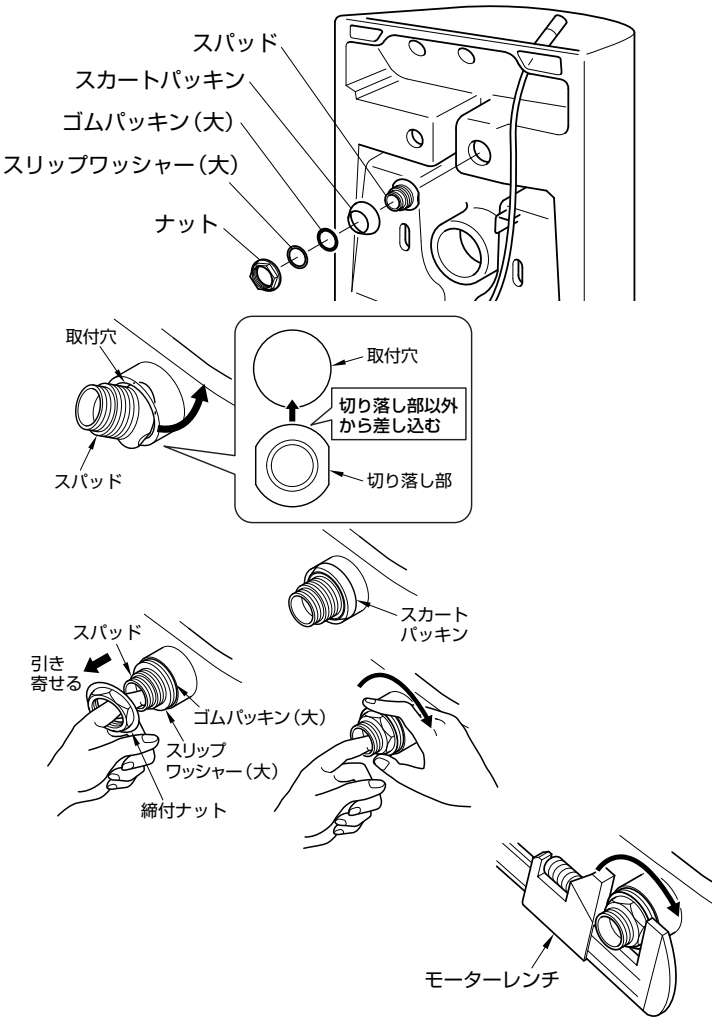
①スパッドを取付穴に差し込む。
右図のように切り落し部以外から取付穴に入れ、切り落し部を通過させるように差し込んでください。
※始めに切り落し部から差し込むと、取付穴と干渉し、通過しない場合があります。

②スカートパッキンを取付穴に差し込み、スパッドに組み込みます。

③ゴムパッキン（大）・スリップワッシャー（大）の順にスパッドに組み込みます。

④あらかじめ指に締付ナットを通し、スパッドを取付穴の中心で引き寄せ、締付ナットを手で締め込みます。

⑤最後にモーターレンチなどの工具を使用して確実に締め込みます。

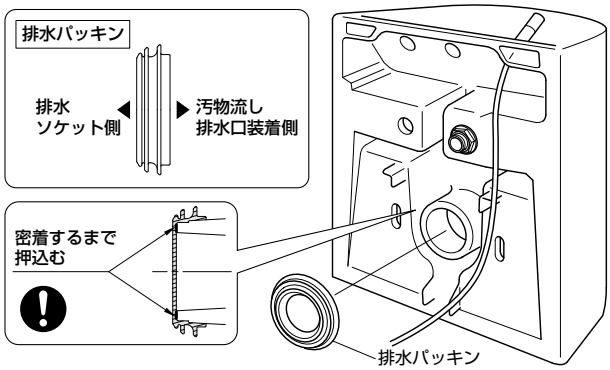


3 排水パッキンの取り付け

※排水パッキンは単独排水管継手に同梱

> **・排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込む**
> **・グリスは使用しない**
> 劣化して水漏れのおそれがあります。

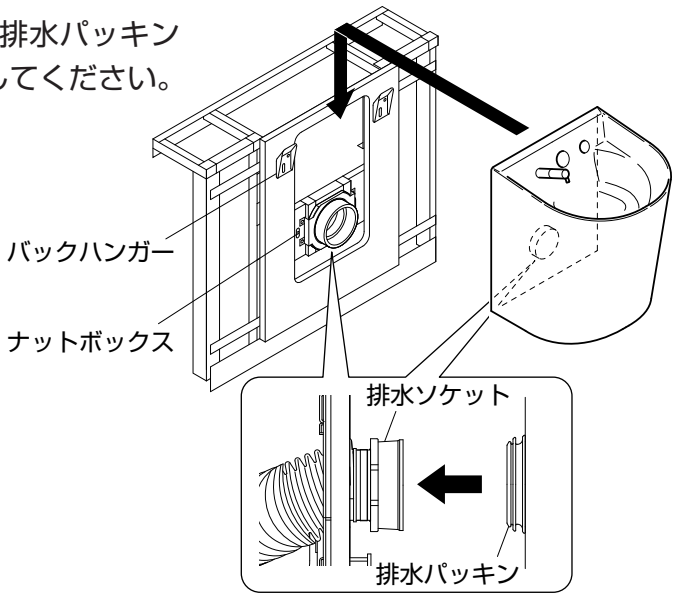
汚物流し排水口外周のごみや水分などを除き、排水パッキンの向きを確認し、装着します。



STEP15 汚物流しの取り付け

1 汚物流しの取り付け

汚物流しをバックハンガーに引っ掛けながら、排水パッキンが排水ソケット内にスムーズにはまるよう挿入してください。



!

- **排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない**
  劣化して水漏れのおそれがあります。
- **パッキンを他の部位にぶつけない**
  シール性が確保できなくなり、水漏れのおそれがあります。
- **パッキンを強引に挿入しない**
  パッキンがめくれて水漏れのおそれがあります。

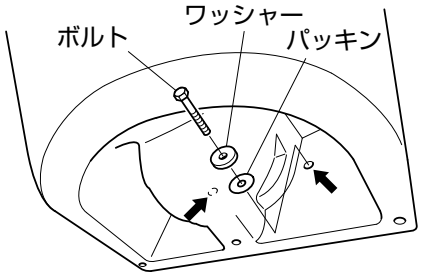
チェック

- ●水石けん供給栓のホースをはさまないように注意してください。
- ●陶器を引っ掛ける際、前面板をキズつけないように注意してください。

2 汚物流しの固定

※便器取付ボルトは前面板部品箱に同梱

排水ソケット左右のナットに便器取付ボルトをねじ込み、固定します。(2カ所)



!

ボルトをきつく締めすぎない

・陶器が割れ、けがの原因になります。
また、器具裏前面板と左右に取り付く点検口に面段差が生じます。

STEP16 洗浄管の取り付け

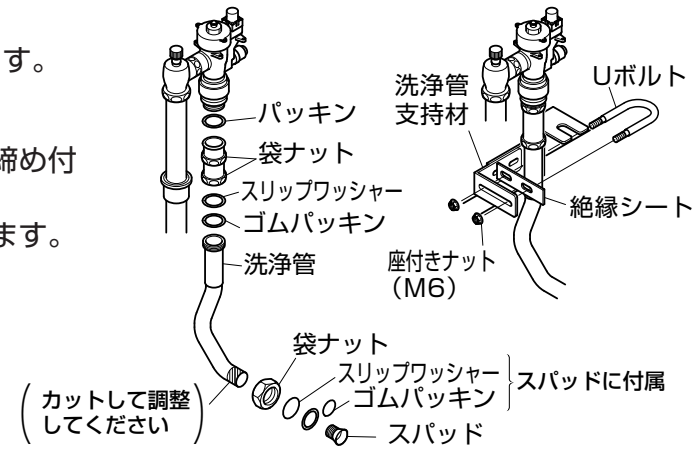
※洗浄管は前面板部品箱の同梱

フラッシュバルブと汚物流しを洗浄管で接続します。

①フラッシュバルブに洗浄管を取り付けます。

②洗浄管とスパッドを連結させ、袋ナットで締め付けます。

③洗浄管を洗浄管支持材にUボルトで固定します。
洗浄管と洗浄管支持材の間に絶縁シートをはさんで座付きナット(M6)で固定してください。
※洗浄管の位置が合わない時は小ねじをゆるめて左右の調整をしてください。



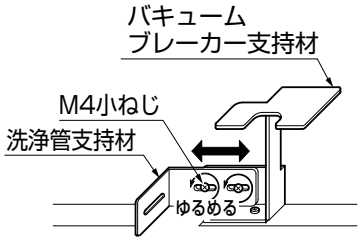
!

全ての連結部が締まっていることを確認する

水漏れ防止のためフラッシュバルブの一次側接続部、汚物流し固定部を増し締めしてください。

洗浄管支持材調整方法

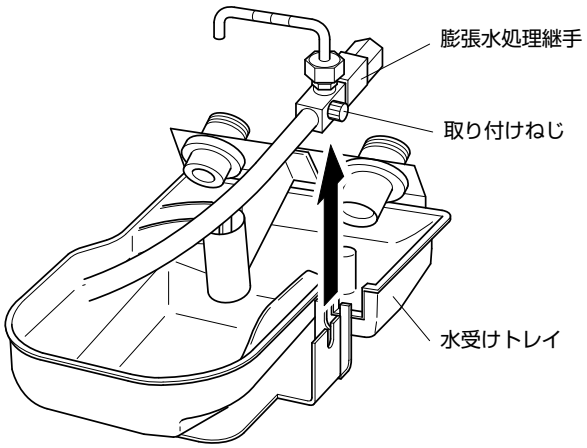
①図のM4小ねじ2本をゆるめます
②洗浄管支持材を左右に動かし調整します
③位置決めしたらM4小ねじを固定します



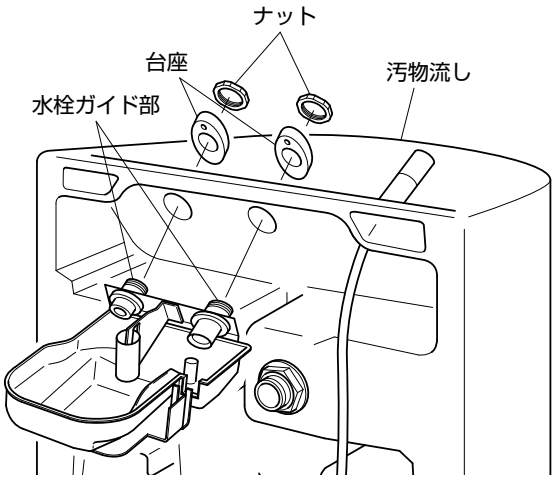
STEP17 水受けトレイの取り付け

水受けトレイを汚物流しに取り付けます。

①水受けトレイの膨張水処理継手を取り外します。
取り付けねじを緩めて取り外してください。



②水受けトレイをフレーム上部から差し込み、水受けトレイの水栓ガイド部を汚物流し裏側から差し込みます。
上下を間違えないよう、またフレームで水受けトレイを傷付けないように差し込んでください。
③本体取付ねじ穴が上になるように台座を挿入し、ナットで締め付けます。

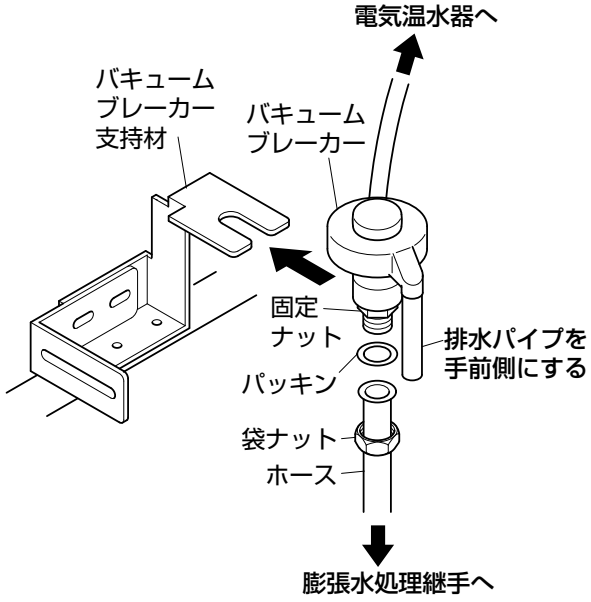


STEP18 バキュームブレーカーの取り付け

1 ホースの取り付け

①あらかじめ、バキュームブレーカーの固定ナットをゆるめておき、排水パイプを手前にしてバキュームブレーカー支持材のスリットに挿入し、固定ナット締め付けて固定します。

②バキュームブレーカーの下先端に膨張水処理継手からのホースを袋ナットで接続します。

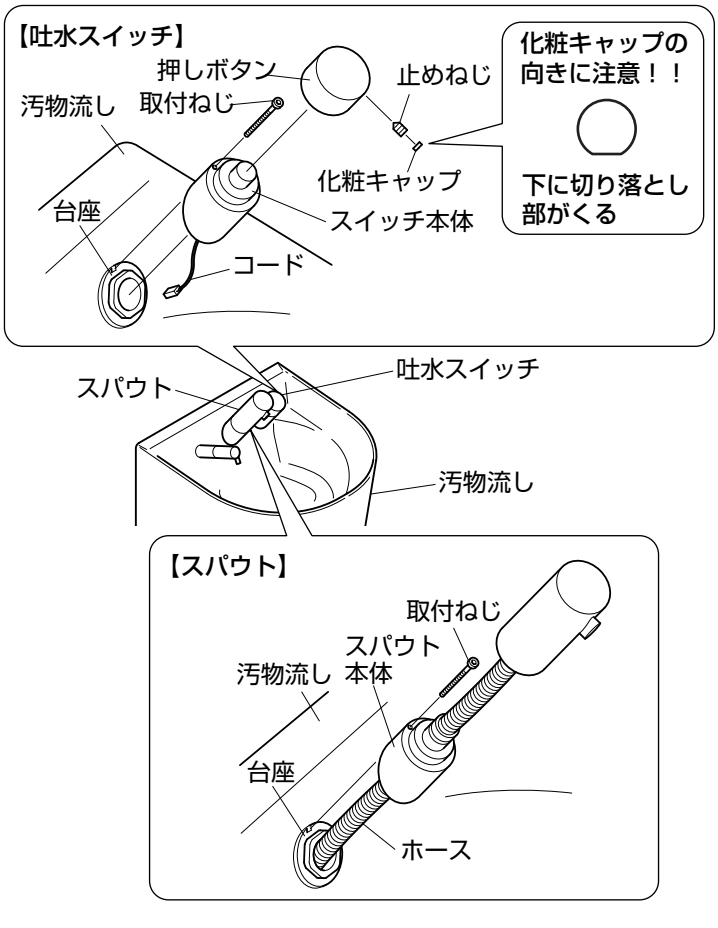


STEP19 水栓の取り付け

1 吐水スイッチの取り付け

①コードを台座に通し、スイッチ本体を取付ねじで台座に取り付けます。

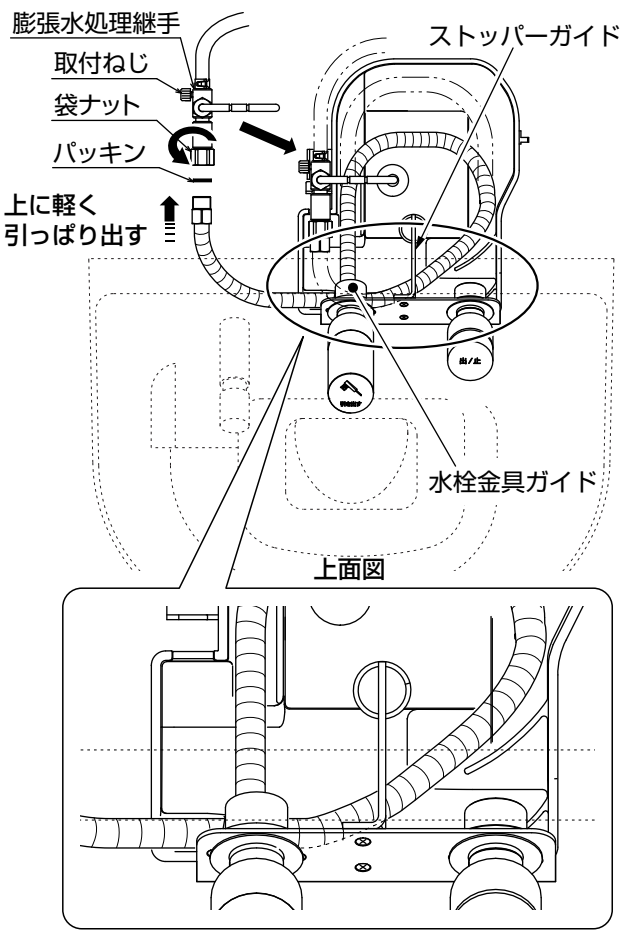
②押しボタンを本体に差し込み、止めねじで固定し、化粧キャップを取り付けます。
※取付ねじ・止めねじは六角レンチ（呼び寸法2.5mm）を使用してください。



2 スパウトの取り付け

①ホースを台座に通し、スパウト本体を取付ねじで台座に取り付けます。

②ホースを水受けトレイのストッパーガイドと水栓金具ガイドの下をくぐらせ、ホースを矢印方向へ押し出します。
※ホース先端を作業のしやすい位置まで上に軽くひっぱり出して、膨張水処理継手との接続を行ってください。



ポイント

●よじれがホースに生じないように注意して、膨張水処理継手の袋ナットを締め込んでください。

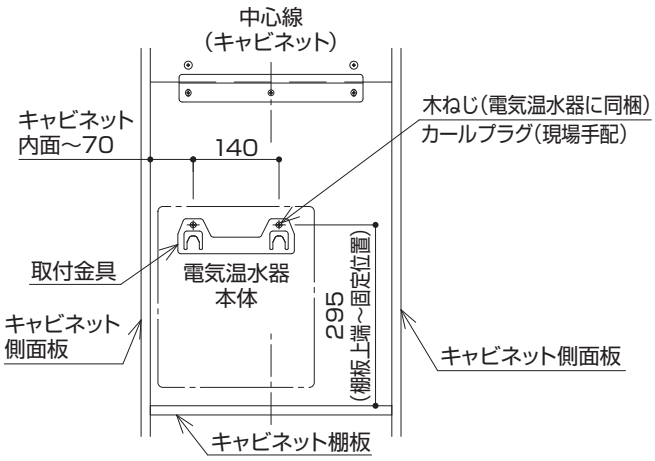
③膨張水処理継手を取付ねじで水受けトレイに固定します。

STEP20 電気温水器の取り付け

1 電気温水器の設置

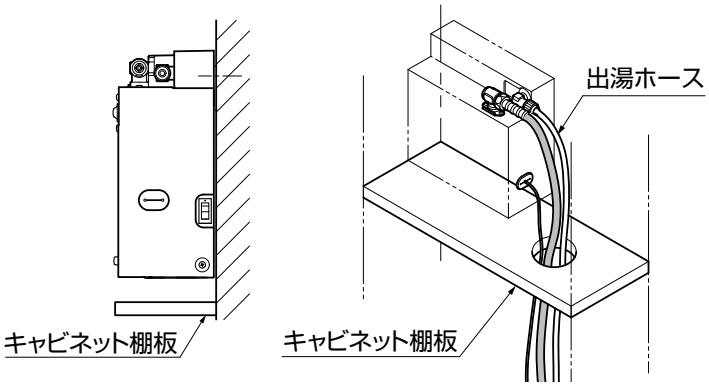
コンクリート壁下地の場合

①取付金具の固定位置に下穴をあけ、カールプラグ（現場手配）を打ち込みます。
※カールプラグは木ねじ（φ5.1×32）に合うものを手配してください。
②取付金具を固定位置に合せて電気温水器に同梱の木ねじ2本で水平に固定します。
③取付金具へ電気温水器本体を引っ掛けます。
※本体が水平になるように取り付けてください。



合板下地の場合

取付金具を固定位置に合せて木ねじ2本で水平に固定し、電気温水器本体を引っ掛けます。
※本体が水平になるように取り付けてください。

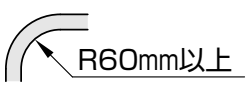


2 出湯ホースの接続

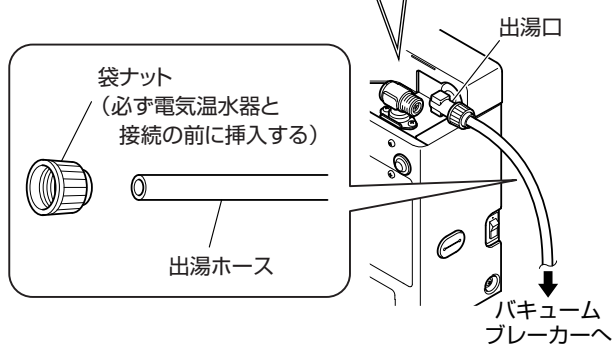
①バキュームブレーカーからの出湯ホースに袋ナットを通し、出湯ホースを出湯口に差し込みます。
②袋ナットを手で締め付けます。

チェック
- ホースが確実に差し込まれていることを確認してください。
- ホースが折れ曲ることのないように注意してください。

ポイント
- ホースは、極端に折らない。（R60mm以上は確保してください。）

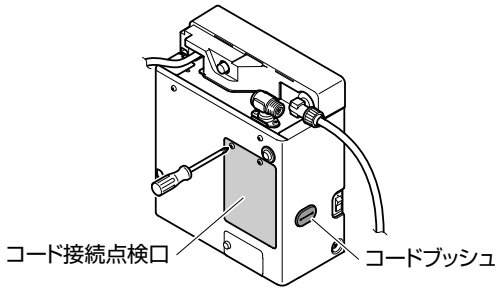


袋ナットの締め付けは手で確実に締め付ける
- 工具を使うと袋ナットが破損し、水漏れの原因になります。
- 締め付けが不十分な場合、水漏れの原因になります。



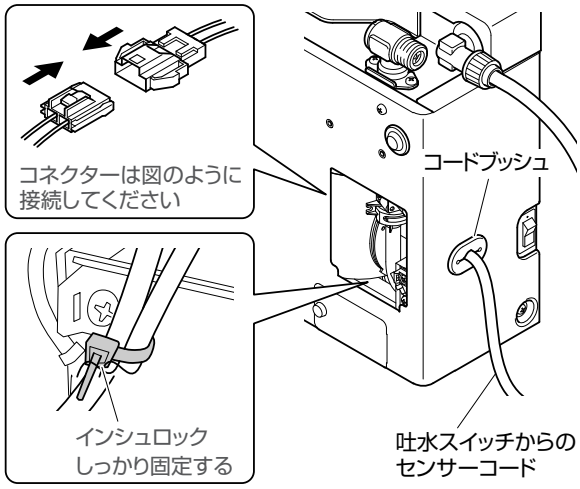
3 センサーコードの接続

①コード接続点検口を取り外します。



②汚物流し水栓の吐水スイッチからのセンサーコードをコードブッシュから電気温水器の中に入れ、コントローラーから出ているコネクターとスパウトからのコードを接続します。
インシュロックでコードをしっかり固定します。

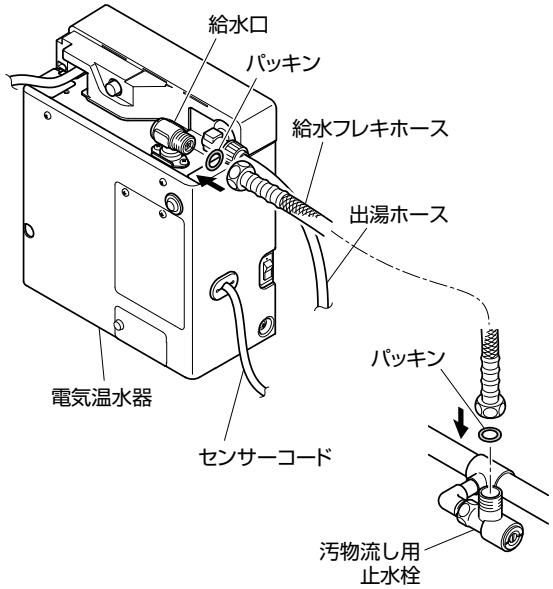
ポイント ●コネクターはカチッと音がするまで確実に差し込んでください。



③コード接続点検口を取り付けます。

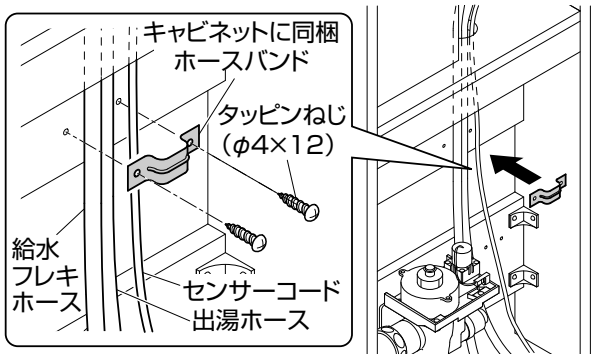
4 電気温水器の給水接続

電気温水器の給水口と汚物流し用止水栓を給水フレキホースで接続します。



5 ホースの固定

電気温水器からの出湯ホース、給水フレキホースおよびセンサーコードを鏡キャビネットに同梱のホースバンドとタッピンねじ（φ4×12）で固定します。



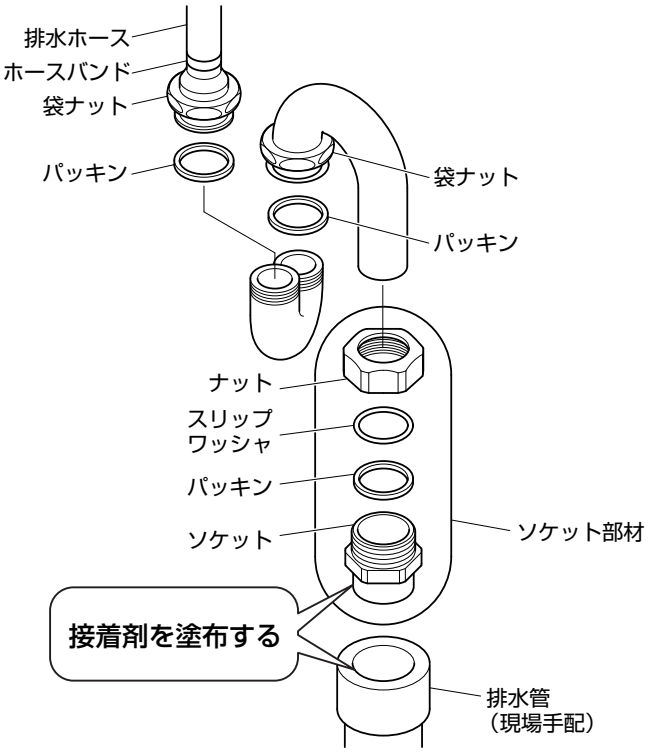
STEP21 排水金具の取り付け

1 ソケットの固定

ソケットを排水管（現場配管）に硬質塩化ビニル管用接着剤で固定します。

2 排水金具の接続

排水金具を排水ソケットに接続し、水受けトレイの排水ホースを排水金具に接続します。

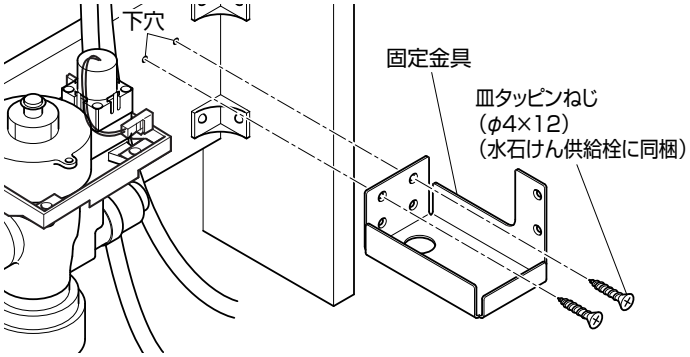


STEP22 水石けんタンクの取り付け

水石けん供給栓に同梱の施工説明書を参考に施工してください。

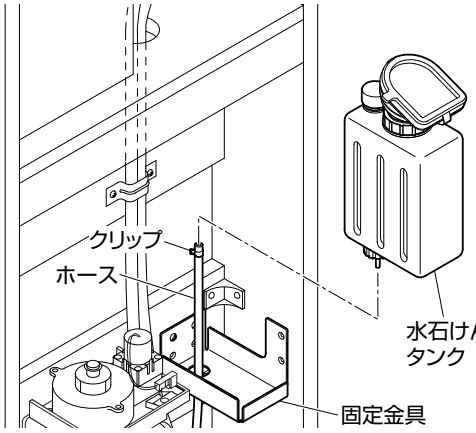
1 水石けんタンク固定金具の固定

水石けんタンク固定金具を水石けん供給栓に同梱の皿タッピンねじ（φ4×12）2本で鏡キャビネットに固定します。
固定金具の上側2カ所の穴を使って固定します。



2 水石けんホースの接続

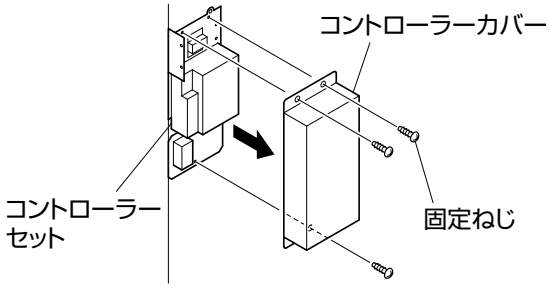
①ホースを水石けんタンク固定金具の穴に通します。
②水石けんタンクをホースで接続します。
ホースをしっかりと差し込み、クリップで固定します。
③水石けんタンクを固定金具に設置します。



STEP23 コントローラーの取り付け

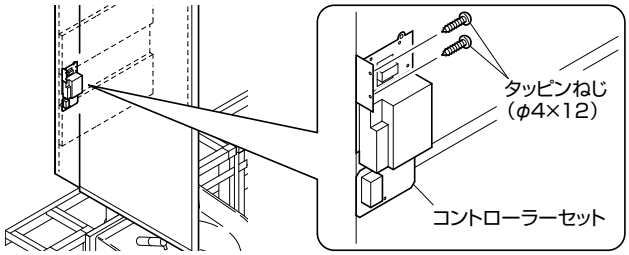
1 コントローラーカバーの取り外し

コントローラーセット取り付けの前にコントローラーカバーを取り外します。



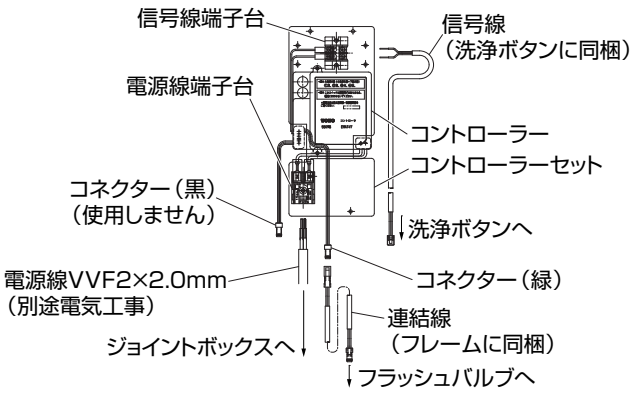
2 コントローラーの取り付け

コントローラーセットを鏡キャビネットにタッピンねじ（φ4×12）2本で取り付けます。



3 結線

電源線、連結線、信号線をそれぞれコントローラーに接続します。
コネクター（緑）は、ベースプレートの前へ回し、電源線端子台横で接続。コントローラーカバーの切り欠きからコードの引き回しをします。

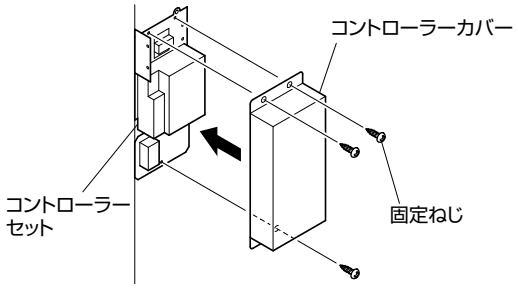


4 コントローラーカバーの取り付け

コントローラーカバーを支持材にタッピンねじ（φ4×8）3本で取り付けます。

ポイント

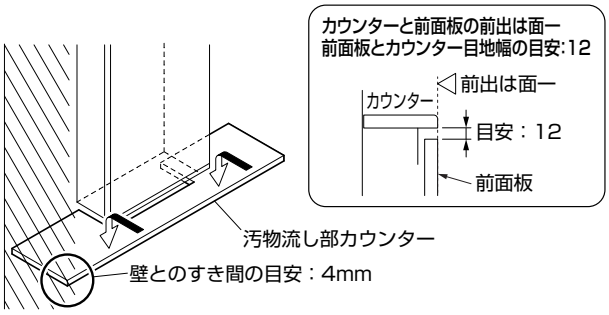
●カバー取り付けの際に、コードのはさみ込みがないよう、カバー左下の取り出し用切り欠きから取り出してください。



STEP24 カウンターの取り付け

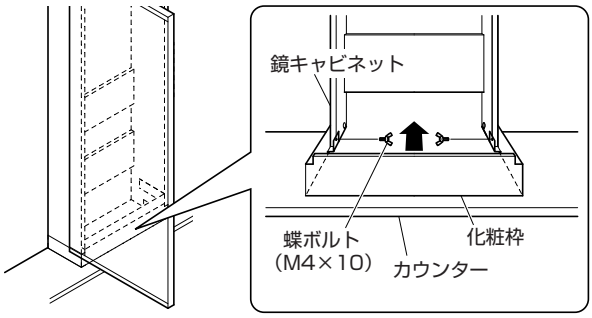
1 カウンターの取り付け

①カウンターの前出を前面板に合せながら取り付けます。



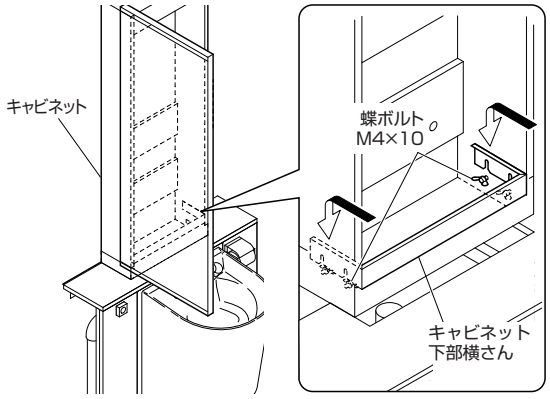
②鏡キャビネットとカウンターの間に化粧枠を取り付けます。
化粧枠の下穴に蝶ボルトを取り付け、壁に軽く押し付けながら蝶ボルトをねじ込んで固定します。

ポイント
●化粧枠を取り付ける際に、カウンターを傷つけないようにしてください。
1枚紙を敷いておくと傷を防げます。



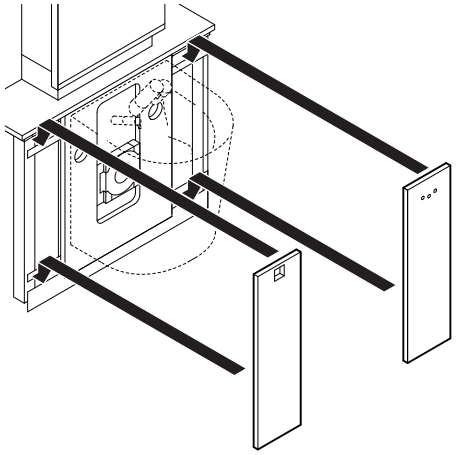
STEP25 キャビネット下部横さんの取り付け

鏡キャビネット設置の際に取り外しておいた横さんを固定します。
蝶ボルト（4カ所）をねじ込んで固定してください。



STEP26 点検口の取り付け

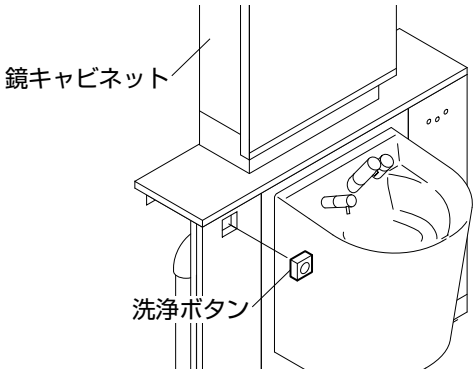
取り外しておいた点検口をフレームに取り付けます。



STEP27 洗浄ボタンの取り付け

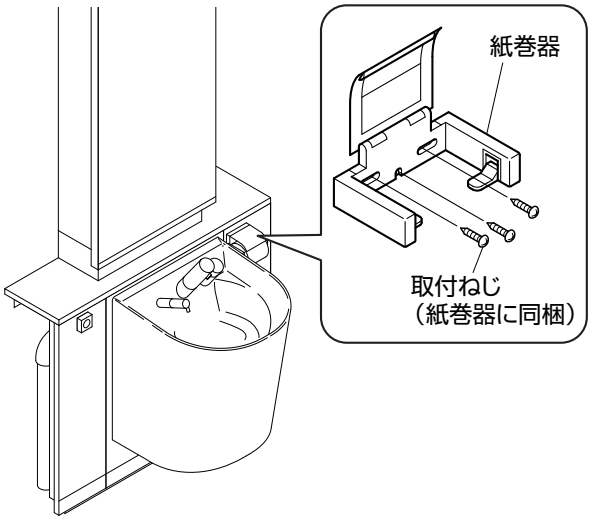
洗浄ボタンに同梱の施工説明書を参照して、施工してください。

汚物流し横点検口の角穴に洗浄ボタンを取り付けます。
鏡キャビネットの中にある汚物流し用コントローラーに接続します。



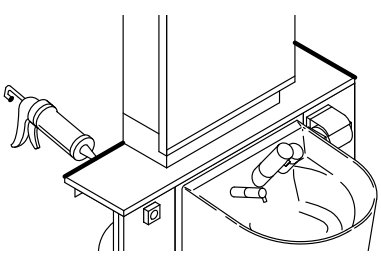
STEP28 紙巻器の取り付け

前面板の下穴に合せて、紙巻器を取付ねじ（紙巻器に同梱）で固定してください。

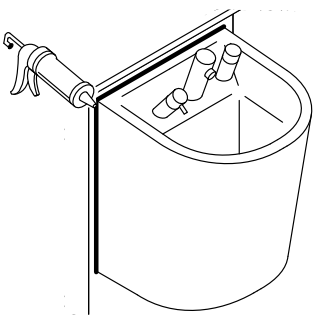


STEP29 仕上げ

カウンターと壁とのすき間はシリコンコーキングにて仕上げます。汚物流しの周囲にもシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。
シリコンコーキングは別途手配です。



カウンターと壁の間



汚物流しまわり

取付完了後の確認

水漏れ確認のポイント

給排水管接続部が水漏れしていないことを確認してください。
点検にあたっては、前面板やカウンター点検口を取り外して作業してください。

①フラッシュバルブ一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
②洗浄管・スパッド部
③排水フランジ・排水ジャバラ接続部
④電気温水器用止水栓接続部
⑤水栓金具・電気温水器・バキュームブレーカー接続部
※水石けん供給栓・水石けんタンクまわりも接続状況を確認ください。

汚物流しに水漏れが見られる場合は、排水パッキンの取り付けから再施工してください。

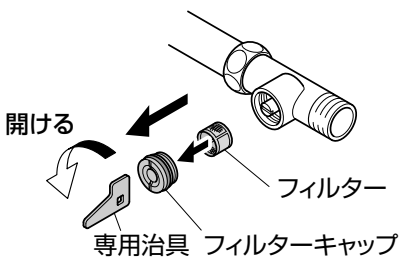
通水試験

通水試験は通水後の給・排水系統、さらにそれらと器具の接続部分の水漏れの有無を確認する大切な作業です。

（1）通水試験のポイント

・通水試験は事前に全ての器具、配管等の連結部が完全に接続されているか確認した後、実施してください。
　また、電気配線についても間違いがないことを確認後、通電するようにしてください。
・電気温水器の試運転は、次のページの手順を確認して実施してください。
・通水試験については、建築・設備担当者または、責任者の承認、指示を受け、その立会いのもとで実施してください。
　併せて試験結果を検査表として整理し、立会い者のサインをもらっておくと良いでしょう。
・通水試験時には必ず、2名以上の人員を配備しPS内元バルブ開閉者とトイレパックの水漏れ確認者とに分かれて作業してください。もしも元バルブ以降の配管・器具の外れ、または接合部からの大きな漏れが発見された場合に、ただちに元バルブ開閉者へ合図・連絡を行うことで速やかな対応ができ、事故を最小限にくい止めることができます。ぜひ守ってください。
・元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉してください。
・PS内には他にもいろいろな配管、バルブ類がありますので、間違わないようよく確認して開閉をしてください。
・初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがありますので注意してください。
　（止水栓・スパウトのフィルター・網目に詰まった異物はブラシ等で取り除いてください。）

❗	**通水時に止水栓のフィルター清掃を行う（自動水栓、電気温水器）** フィルターを通ったごみが機器内に入り、故障や水漏れの原因になります。
	フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う 水が噴き出して、家財などをぬらす財産損害のおそれがあります。

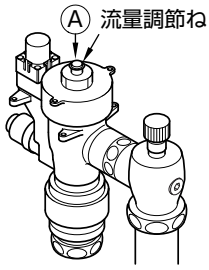


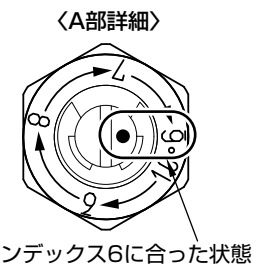
（2）必要な水圧

・0.07MPa以上（流動時）の水圧が必要です。（最高水圧0.75MPa）

(3) 汚物流しの流量調整

●フラッシュバルブの流量調節ねじがインデックス6に合った状態であることを確認してください。

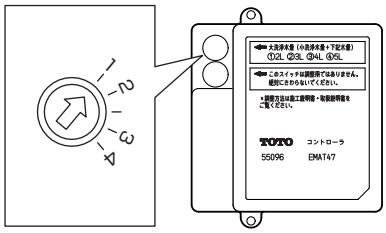




チェック もし、インデックス6の状態でない時は流量調節ねじを、右回りいっぱいに回した状態からインデックス表示を6に合わせてください。

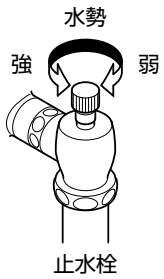
※調節ねじを左に回すと吐水量が増え、右に回すと吐水量が減ります。

●コントローラのロータリースイッチは1の位置（出荷時状態）でご使用ください。

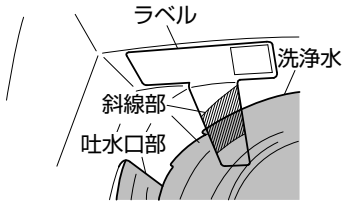


チェック コントローラの設定がフラッシュバルブ流量調節ねじの値＋2Lとなっていますので、フラッシュバルブがインデックス6の状態で洗浄水量は8Lとしてご使用いただけます。

洗浄時水飛びが生じないように、止水栓ハンドルで水勢調整をします。
右に回すと水勢が弱まり、左に回せば強くなります。
全閉した状態から調整をはじめてください。

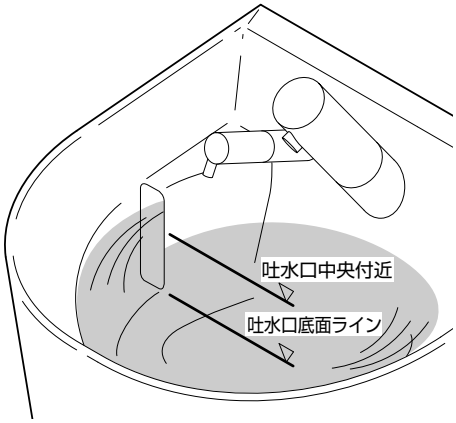


陶器本体に張られている調整位置を示したラベルの指示にしたがって、ラベルの斜線部分の範囲に洗浄水の水位が来るように調整してください。
必ず、他器具と同時に使用していないことを確認してください。
ラベルは調整後はがしてください。



ラベルをはがしてしまった後の調整目安

吐水口先端を通過する水流の高さが吐水口の底面ラインから吐水口中央の間になるように止水栓を調整してください。
また、陶器前面からの水の飛び出し、水栓金具に吐水が当たらないことを確認してください。

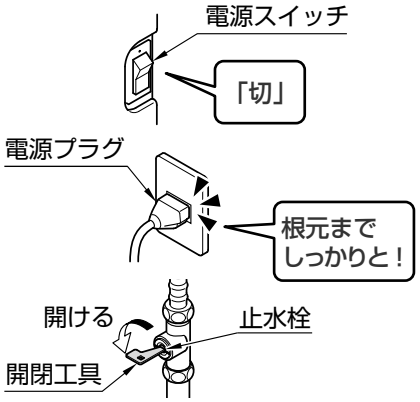


（4）電気温水器

電気温水器に同梱の施工説明書にしたがってください。

電気温水器の試運転

タンクが空のときは絶対に電源スイッチをいれない
（空焚きとなり故障、事故の原因となります。）



①電源スイッチが「切」になっていることを確認する。

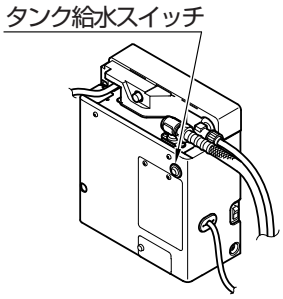
②電気温水器の電源プラグをコンセントの根元まで確実に差し込む。

③止水栓に付属の開閉工具で止水栓を開ける。

注意

- ●給水管に塩ビ管を使用している場合は、接着剤が完全に乾いてから通水してください。（水から臭いがするおそれがあります。
- ●止水栓が開いた状態で電気温水器の電源プラグをコンセントに差し込むと5秒間吐水する場合がありますが、異常ではありません。

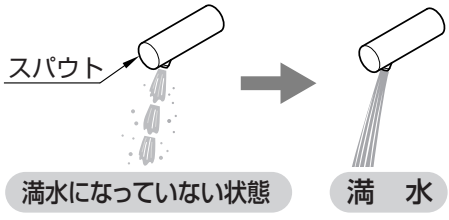
④タンク給水スイッチを押して、タンクを満水にする。



空焚き禁止

（タンクが満水になる前に電源スイッチを「入」にしない）

タンク給水中は、空気を巻き込んだ状態でスパウトから断続的に吐水します。
満水状態になると吐水状態は安定します。
（満水になったら、再度タンク給水スイッチを押し、水を止めてください。）



満水になるまでには、約2分程かかります。

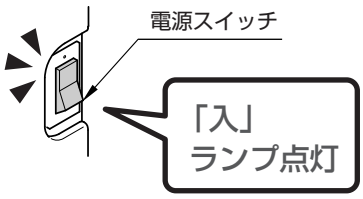
注意

- ●タンク給水スイッチを押すと約5分間連続して水が出ます。（途中で再度スイッチを押すと、水は止まります。）
  約1分間しか水が出ない場合は電源プラグをコンセントより抜いて、5秒程度してから再度、電源プラグをコンセントに差し込み、タンク給水スイッチを押してください。
- ●吐水状態が安定する前に水が止まったら、再度タンク給水スイッチを押して水の出方を安定させ、タンクを満水にしてください。

⑤スパウトの動作確認を行う。
・操作スイッチを押すとお湯が出ます。
・もう一度操作スイッチを押すと止まります。
止め忘れても約1分経過すると自動的に止まります。
※吐水時に膨張水処理ユニットより排水されることがありますが、故障ではありません。

⑥配管接続部に水漏れがないか確認する。

⑦電源スイッチを「入」にし、ランプが点灯することを確認する。
↓
沸き上がると電源スイッチのランプが消灯します。



給水温	5℃（冬）	15℃（春・秋）	25℃（夏）
沸き上がり時間の目安	約23分	約20分	約17分

空焚きリセットの方法

※万一空焚きした場合は、以下の手順で電気温水器内のリセットボタンを押して安全装置を解除してください。

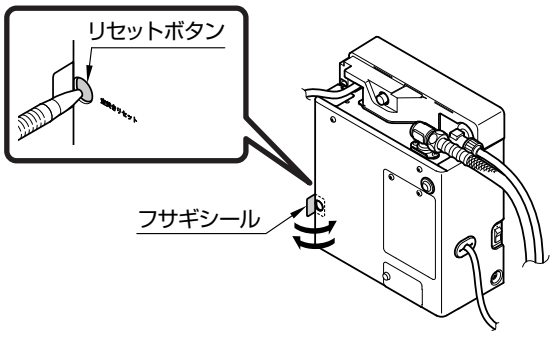
①電源スイッチを「切」にする。

②タンクに水を入れる。

③電源プラグを抜く。

④フサギシールをはがし、右図のリセットボタンをペン先などで押す。
※はがしたフサギシールは再度使用しますのでなくさないでください。

⑤リセットボタン部の穴をフサギシールでふさぐ。



電気温水器の水抜方法

試運転後、引き渡しまで長期間使用しない場合は、次の要領で機器内の水を抜いてください。

①電源スイッチを「切」にする。

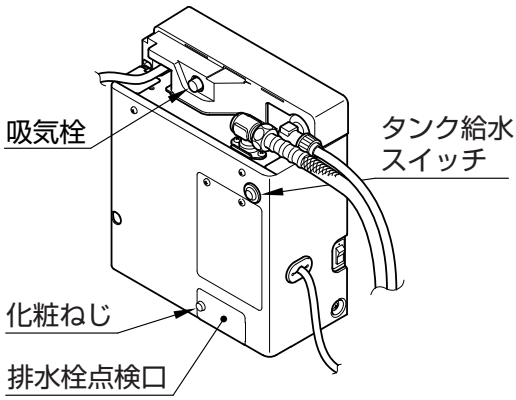
②排水栓点検口を外す。

③タンク給水スイッチを押してスパウトより湯を出し、タンク内の湯を完全に出し切る。
※途中で湯の温度を確認し、**スパウトから水が出るまで湯を出してください。**
※水が出る前に湯が止まったら再度タンク給水スイッチを押し湯を出し切ってください。
※水になったら再度タンク給水スイッチを押し、吐水を止めてください。

④電源プラグを抜く

⑤止水栓に付属の開閉工具にて止水栓を閉める。

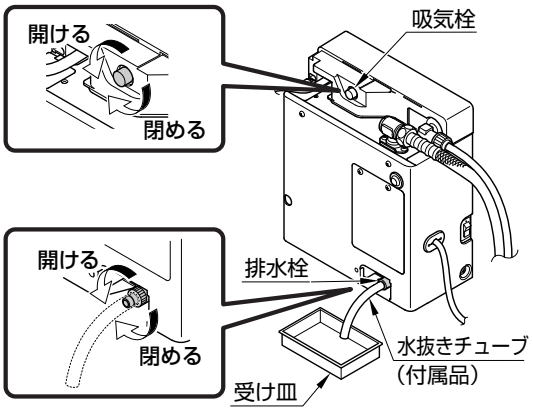
⑥電気温水器下部にある排水栓に付属の水抜きチューブを差し込み、左に回す。
電気温水器上部にある吸気栓を左に回して取り外すと排水が始まります。



吸気栓に触れるときは、タンク内の湯が水になっていることを確かめてから行う
やけどをするおそれがあります。

↓

排水が止まると、水抜きは完了します。
タンクが満水のとき、水抜きは約2分程かかります。



※水を抜く際は、必ず受け皿などで受けてください。

電気温水器の水抜後の処理

①排水栓を止める。

②吸気栓を取り付ける。
※排水栓、吸気栓が閉じられていないと吐水栓時に水が飛び出します。

③排水点検口を取り付ける。

④電源プラグを抜く。

注意	当商品は、寒冷地対応品ではありません。 凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のため保温処置（保温材巻、電気ヒーターなど）を行ってください。 （凍結破損し水漏れするおそれがあります。）

外観・固定部の確認

外観が問題ないことを確認してください。

①取り付け忘れの器具がないかの確認
②寸法の確認（奥行き・高さ・間口寸法）
③水平・垂直の確認
④フレーム内部が露出していないかの確認
（前面板・底目地・フィラー・幅木が正しく取り付けられているか。）

取付部の固定はゆるんでいないか確認してください。

⚠ 警 告

各部の固定・連結がゆるんでいないか確認する
器具が落下して使用される方がけがをする可能性があります。

・カウンター全体を強く押し下げて取り付けます。

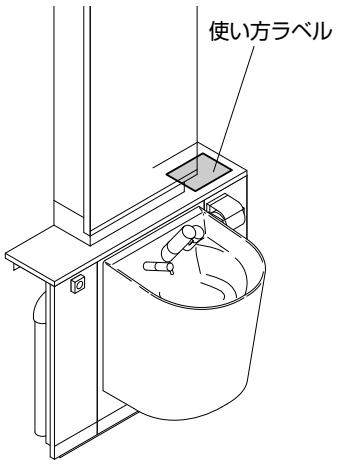
使い方ラベルの張り付け

汚物流し使い方ラベルを見やすい場所に張り付けてください。

張付推奨位置は、紙巻器上のカウンターです。

チェック
●ラベルの張り付けは、確実に行ってください。
張り付けない場合は、確実にお客様にお渡しください。

※汚物流し使い方ラベルは前面板部品箱に同梱



同梱している取扱説明書の最後のページに必要事項をご記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。また、使用方法もご説明ください。手渡しできない場合は、工事完了後目立つ場所に置いてください。